

授 業 計 画

平成 30 年度



福島学院大学大学院

心理学研究科 臨床心理学専攻

目次 contents

1. 教育課程表	1	
2. 到達目標およびカリキュラムツリー	3	
3. シラバス	6	
臨床心理学特論 I	渡 邊 勉	6
臨床心理学特論 II	渡 部 敦 子	8
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	岸/渡部/木村	10
臨床心理面接特論 II	杉 山 雅 彦	12
心理学研究法特論*	梅宮れいか	14
臨床心理学研究法特論	杉山/佐藤/木村	17
心理統計法特論	和 田 裕 一	19
発達心理学特論	神 谷 哲 司	21
教育心理学特論*	梅宮れいか	24
家族心理学特論* (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	渡 部 敦 子	27
職場メンタルヘルス特論	茂 木 積 雄	29
発達障害児心理学特論* (福祉分野に関する理論と支援の展開)	板垣健太郎	33
発達障害児心理学演習*	板垣健太郎	35
精神医学特論* (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	星 野 仁 彦	37
精神薬理学特論	茂 木 積 雄	40
グループ・アプローチ特論	岸 良 範	43
心理療法特論	渡 部 純 夫	45
臨床心理地域援助特論	須 田 誠	48
学校臨床心理学特論	杉 山 雅 彦	51
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践の意義)	木 村 泰 博	53
臨床心理査定演習 II	渡 邊 勉	56
臨床心理基礎実習	岸 / 渡 部	57
臨床心理基礎実習	杉 山 / 佐 藤	60
臨床心理実習	渡 邊 勉	63
臨床心理実習	木 村 泰 博	66
発達障害児援助実習	板垣健太郎	69
発達障害児援助実習	佐 藤 佑 貴	72
心理実践実習 B	杉山/板垣/木村	75
心理実践実習 B	岸/渡部/佐藤	78
臨床心理課題研究 I	星 野 仁 彦	80

臨床心理課題研究Ⅰ	杉山雅彦	83
臨床心理課題研究Ⅰ	渡邊勉	85
臨床心理課題研究Ⅰ	岸良範	87
臨床心理課題研究Ⅰ	渡部敦子	89
臨床心理課題研究Ⅰ	佐藤佑貴	91
臨床心理課題研究Ⅱ	星野仁彦	93
臨床心理課題研究Ⅱ	杉山雅彦	95
臨床心理課題研究Ⅱ	渡邊勉	97
臨床心理課題研究Ⅱ	岸良範	99
臨床心理課題研究Ⅱ	渡部敦子	101
臨床心理課題研究Ⅱ	佐藤佑貴	103
臨床心理課題研究Ⅲ	杉山雅彦	105
臨床心理課題研究Ⅲ	渡部敦子	107
臨床心理課題研究Ⅲ	佐藤佑貴	109
臨床心理課題研究Ⅳ	杉山雅彦	111
臨床心理課題研究Ⅳ	渡部敦子	113
臨床心理課題研究Ⅳ	佐藤佑貴	115

* 大学院心理学研究科こども心理専攻との共通科目です。

1. 教育課程表

平成 29 年度以前入学生用

授業科目	講義形態	単位数		備考
		必修	選択	
専門科目				
臨床心理学基礎科目				
臨床心理学特論Ⅰ	講義	2		専門科目は、必修科目 24 単位および選択科目より各群 2 単位以上、計 10 単位以上修得する。(ただし、心理学系の学部・学科卒業者以外は、この他に臨床心理基礎演習 2 単位を必修とする。) 修了要件は合計 34 単位以上(上記ただし書きに該当する者は 36 単位以上)を修得し、修士論文の審査および試験に合格するものとする。
臨床心理学特論Ⅱ	講義	2		
臨床心理面接特論Ⅰ	講義	2		
臨床心理面接特論Ⅱ	講義	2		
臨床心理査定演習Ⅰ	演習	2		
臨床心理査定演習Ⅱ	演習	2		
臨床心理基礎実習Ⅰ	実習	1		
臨床心理基礎実習Ⅱ	実習	1		
臨床心理実習	実習	2		
臨床心理基礎演習	演習		2	
(A 群)心理学研究基礎科目				
心理学研究法特論	講義		2	
心理統計法特論	講義		2	
臨床心理学研究法特論	講義		2	
(B 群)基礎心理学科目				
発達心理学特論	講義		2	
教育心理学特論	講義		2	
(C 群)応用心理学科目				
家族心理学特論	講義		2	
職場メンタルヘルス特論	講義		2	
(D 群)精神医学関連科目				
精神医学特論	講義		2	
精神薬理学特論	講義		2	
発達障害児心理学特論	講義		2	
発達障害児心理学演習	演習		2	
(E 群)臨床心理学応用科目				
心理療法特論	講義		2	課題研究は、研究指導のための科目とする。
発達障害児援助実習	実習		2	
学校臨床心理学特論	講義		2	
グループ・アプローチ特論	講義		2	
臨床心理地域援助特論	講義		2	
課題研究				
臨床心理課題研究Ⅰ	演習	2		
臨床心理課題研究Ⅱ	演習	2		
臨床心理課題研究Ⅲ	演習	2		
臨床心理課題研究Ⅳ	演習	2		

平成30年度入学生用

授業科目	単位数		備考	
	必修	選択		
臨床心理学特論 I	2		修了要件は、必修科目 24 単 位、選択科目 10 単位以上、 計 34 単位以上を修得し、修 士論文の審査および試験に 合格するものとする。	
臨床心理学特論 II	2			
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	2			
臨床心理面接特論 II	2			
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2			
臨床心理査定演習 II	2			
臨床心理基礎実習	2			
臨床心理実習 I (心理実践実習 A)	1			
臨床心理実習 II	1			
心理実践実習 B		5		
心理実践実習 C		4		
心理統計法特論		2		} いずれか 2 単位必修
臨床心理学研究法特論		2		
発達心理学特論		2		} いずれか 2 単位必修
教育心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)		2		
家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)		2		} この内より 2 単位必修
職場メンタルヘルス特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		2		
犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		2		
精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		2		} いずれか 2 単位必修
発達障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)		2		
心理療法特論		2		} いずれか 2 単位必修
学校臨床心理学特論		2		
心の健康教育に関する理論と実践		2		
臨床心理課題研究 I	2		課題研究は、研究指導のた めの科目とする。	
臨床心理課題研究 II	2			
臨床心理課題研究 III	2			
臨床心理課題研究 IV	2			

2. 到達目標およびカリキュラム・ツリー

授業等の履修によって、学生のみなさんが身につけるものとして本専攻では以下の5つを設定しています。また、各授業がどの目標につながるのかについて、シラバス内に記載してありますのでご確認ください。次ページには、到達目標と授業との関連を示すカリキュラム・ツリーを策定しています。こちらを参考にいただき、授業科目の履修計画をたててください。

到達目標

- 1) 臨床心理学に関連する基礎的・専門的知識を修得する。
- 2) 対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点を持つ。
- 3) 問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力を持つ。
- 4) 個別・集団・地域等、様々な臨床的支援の対象に関して、見立ておよび介入できる力を養う。
- 5) 臨床心理学的視点から問題意識を持ち、臨床実践に貢献する研究を実施する力を養う。

表.3 福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻 カリキュラム・ツリー

人材育成の目的
 心の問題の今日的な課題に対応できる、高度で専門的な実践能力と研究能力を養い、心理的支援に習熟した人材を育成する。

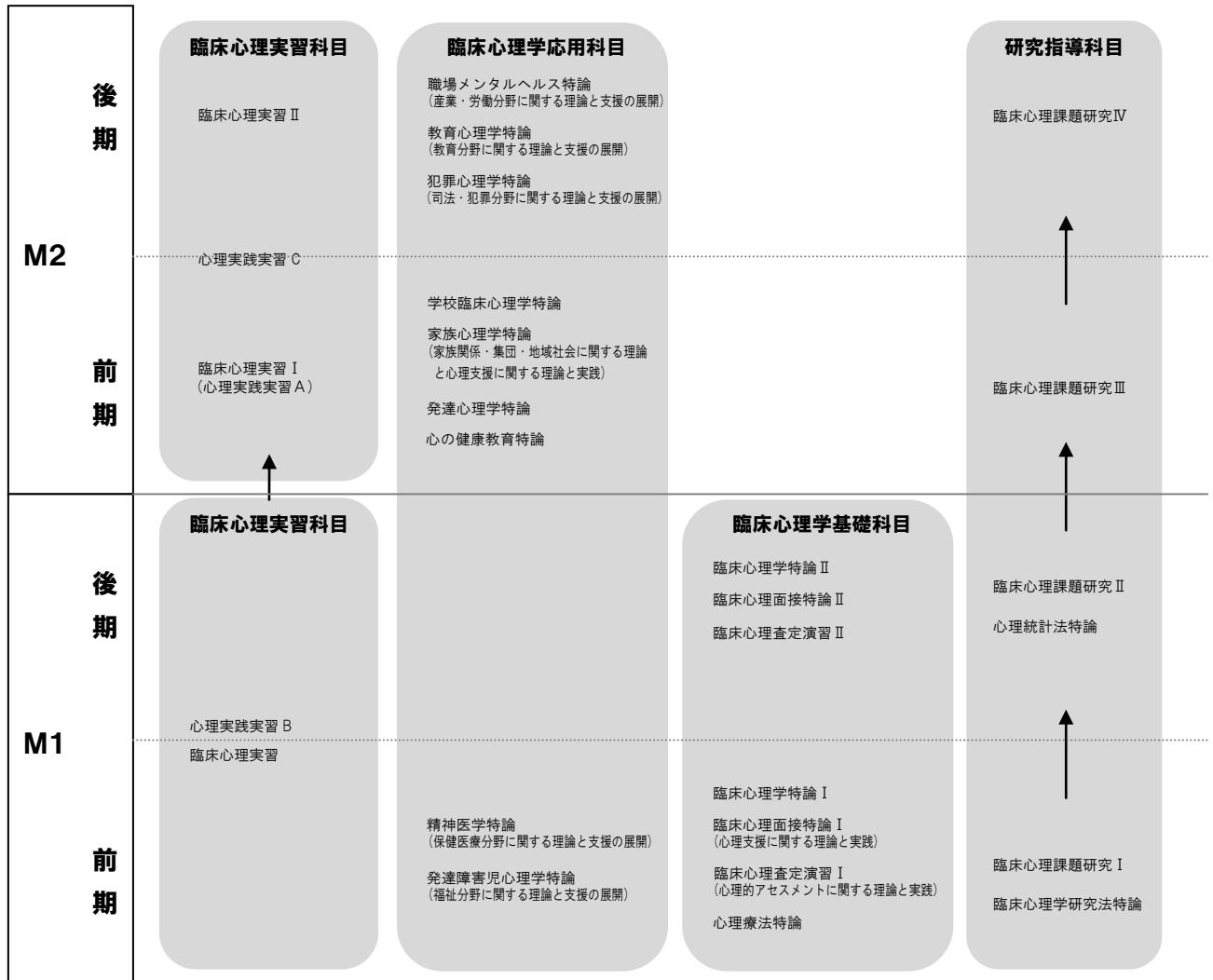
到達目標

- ・臨床心理学に関連する基礎的・専門的知識を修得する。
- ・対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点を持つ。
- ・問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力を持つ。
- ・個別・集団・地域等、様々な臨床的支援の対象に関して、見立ておよび介入できる力を養う。

到達目標

- ・臨床心理学的視点から問題意識を持ち、臨床実践に貢献する研究を実施する力を養う。

修士論文審査



3. シラバス

心理学研究科臨床心理専攻

授 業 計 画

平成 30 年度

授業科目名	臨床心理学特論 I		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな わたなべ つとむ 氏名：渡邊 勉		開講期	前期
			授業回数	15 回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	必修	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		初回の授業時に説明します		

【授業の概要】 本授業の目標は、心理臨床家としてクライアントの依頼に応じるために必要な基礎知識と対応力を身に着けることである。教員自身の臨床事例・素材を使った講義と、受講者が基本テキストおよび文献から理解したことの発表とを組み合わせ、お互いの理解度を確かめながら双方向的にすすめる。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/> A	知識	
	<input type="radio"/> B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力	
	<input type="radio"/> D	文章表現力	
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/> G	協働能力	
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/> K	課題対処力	
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
クライアントに関わることの意味と重要性を説明できる		目標	A、H
多くの心理療法の根底にある概念を理解して心理臨床活動に実践できる		目標	B、I、J、K、L
心理臨床家の倫理と責任を自覚して事例研究にまとめることができる		目標	C、D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「生きぬく」：心理療法の原点を考える	資料配布 全体討議	資料学習
2	臨床事例から学ぶ①：「事実」の奥行き	資料配布 全体討議	資料学習 担当者準備

3	臨床事例から学ぶ②：「痛みの文化史」	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
4	クライアントに会う前の準備	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
5	話を聴く・尋ねる・わからないことを整理する	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
6	感情転移	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
7	逆転移	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
8	抵抗：問題の本質	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
9	介入：セラピストの受動性・能動性	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
10	夢を扱う	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
11	親面接	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
12	終結：治るということ	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
13	事例研究を読む①	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
14	事例研究を読む②	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
15	事例研究のまとめ方	資料配布 担当者発表	資料学習 報告書作成
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 担当箇所のレジメ・発表の内容と質 70% 授業参加態度（積極的発言、意欲、主体性）30%</p>			
<p>【教科書】 書名：精神分析的心理療法の実践―クライアントに出会う前に― 著者名：馬場禮子 発行所：岩崎学術出版 価格：3200円(税別)</p>			
<p>【その他補足事項】 <u>教科書は教員の指示があるまで購入しないこと</u> 参考書は随時紹介します。</p>			

授業科目名	臨床心理学特論Ⅱ		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな わたなべあつこ 氏名：渡部敦子		開講期	後期
			授業回数	15 回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60 時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	必修	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します		

<p>【授業の概要】</p> <p>本授業では、心理面接とはどのような行為でありどのような経過を辿るのかについて、基礎的などころを学ぶ。また、実際に心理面接で話を聴くにあたり、どのような問題が起こるのか、何に配慮する必要があるのかについて討議する。さらに、自己理解として、自らの価値観や対人認知、メンタルヘルスについて理解を深める。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/> A	知識	
	<input type="radio"/> B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力	
	<input type="radio"/> D	文章表現力	
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/> G	協働能力	
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/> K	課題対処力		
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
心理面接の基本を理解する。		目標	A、C、D、I、J
心理面接を行うにあたり、考慮すべき各種問題について理解する。		目標	A、C、J
自分自身についての理解を深める。		目標	A、C、J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 自身の志望動機の振り返り	配布資料 ディスカッション	
2	カウンセラーの持つ人間観、価値観 ：心理面接に与える影響について	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
3	対人援助職の適性について	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
4	心理面接の基礎(1) ：枠組みやプロセス	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む

5	心理面接の基礎(2) ：年代による特徴	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
6	心理面接の基礎(3) ：人を理解するということ	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
7	インテーク面接について ：何を聴き何を伝えるか	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
8	面接記録の取り方と意味	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
9	様々なクライアントをどう理解するか ：抵抗	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
10	事例検討とは ：その意義と架空事例による検討	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
11	心理面接における倫理(1) ：倫理綱領を読む	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
12	心理面接における倫理(2) ：事例に潜む倫理的課題に注目する	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
13	心理面接と見立てに関わる対人認知の特徴 ：社会心理学の知見から	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
14	対人援助職従事者のメンタルヘルス	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
15	まとめと振り返り	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 授業への参加態度（ディスカッションへの積極性、授業内容の理解度）50% 小レポート（随時行う）30% まとめレポート 20%</p>			
<p>【教科書】 使用しない。</p>			
<p>【参考書】 書 名：臨床心理学実践の基礎その1 基本的姿勢からインテーク面接まで 著者名：森田美弥子・金子一史 発行所：ナカニシヤ出版 価 格：2500円(税別)</p>			

授業科目名	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 准教授 助教 ふりがな きしよしのり わたなべあつこ きむらやすひろ 氏名：岸良範 渡部敦子 木村泰博	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
修了		専門科目	必修
臨床心理士		専門科目	必修
公認心理師		専門科目	選択
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。	

【授業の概要】 本講義では、臨床心理実践における基本的態度・技法について学ぶことを目的とする。心理療法の幾種類についてその概略を学んだあと、全ての流派に通底すると考えられる話の聴き方について体験的に身につける。さらに、行動論的心理療法、精神力動的心理療法について解説する。	【授業の概要との対応項目】	
	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
心理面接における話の聴き方について、その基礎的技法を身につける	目標	A、B、J、L
行動論的心理療法について理解する	目標	A、B
精神力動的心理療法について理解する	目標	A、B
	目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	臨床心理学とは何か／臨床心理面接とは何か オリエンテーション(渡部)	資料をもとにディスカッション	
2	心理療法の様々な理論／概論(1)(渡部)	各自の分担部分の発表と討議	分担部分の資料作り
3	心理療法の様々な理論／概論(2)(渡部)	各自の分担部分の発表と討議	分担部分の資料作り

4	心理療法の様々な理論／概論(3) (渡部)	各自の分担部分の発表 と討議	分担部分の資 料作り
5	クライアントの観察 共感と受容について (渡部)	資料をもとにディスカ ッション	資料をあらかじめ 読んでくる
6	話の聴き方(1)傾聴の技術 (渡部)	ロールプレイとディス カッション	資料をあらかじめ 読んでくる
7	話の聴き方(2)深く聴き取る (渡部)	ロールプレイとディス カッション	資料をあらかじめ 読んでくる
8	話の聴き方(3)その他の技術 (渡部)	ロールプレイとディス カッション	資料をあらかじめ 読んでくる
9	話の聴き方(4)問題の定義づけと目標設定 (渡部)	ロールプレイとディス カッション	資料をあらかじめ 読んでくる
10	行動論に基づく心理療法(木村)	資料をもとにディスカ ッション	資料をあらかじめ 読んでくる
11	認知論に基づく心理療法(木村)	資料をもとにディスカ ッション	資料をあらかじめ 読んでくる
12	マインドフルネス的な心理療法(木村)	資料をもとにディスカ ッション	資料をあらかじめ 読んでくる
13	精神分析及び精神分析的な心理療法の基礎理 論 (岸)	資料をもとにディスカ ッション	資料をあらかじめ 読んでくる
14	精神分析的な心理療法の面接技法の特徴 (岸)	資料をもとにディスカ ッション	資料をあらかじめ 読んでくる
15	精神分析的な心理療法の面接の実際 (岸)	資料をもとにディスカ ッション	資料をあらかじめ 読んでくる
<p>【到達度の評価 (評価方法・基準)】 授業への参加度 (ディスカッションへの積極性、授業内容の理解度等) 70% 分担発表の内容 30%</p>			
<p>【教科書】 使用しない。</p>			
<p>【参考書】 書 名：耳の傾け方ーこころの臨床家を目指す人たちへ 著者名：松木邦裕 発行所：岩崎学術出版社 価 格：2700 円(税別)</p>			

授業科目名	臨床心理面接特論Ⅱ		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな すぎやままきひこ 氏名：杉山雅彦		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	必修	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>【授業の概要】</p> <p>臨床の場に現れる方達は何か困り事を持っています、したがって、変化することに動機づけを持っていると言えます。ただし、しばしばその変化は明確に生じず、臨床の場で混乱が生じます。ここでは、「変化」「動機づけ」をキーワードに、主として認知行動論的な観点から分析し、理解を進めます。また問題別に発表を課し、その議論の中で臨床場面(面接場面)に関する理解を深めていきます。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/> A	知識	
	<input type="radio"/> B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力	
	<input type="radio"/> D	文章表現力	
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/> G	協働能力	
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/> K	課題対処力	
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
臨床心理学、特に面接に関して基礎的・専門的知識を習得		目標	A,B
面接の対象を多角的、実証的に理解する視点を持ち、発表、議論する		目標	K
臨床的对象に関して、見立てや介入の基礎を確立する		目標	A,B,J
		目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	オリエンテーション	不安に関する検討 資料の検討
2	回避と接近「困っていること」の「問題」 講義	困っていることに関する実際の行動の議論	接近と回避に関する見直し
3	不安とは、不安が生じた際に何が起こるか 講義	不安に関する議論	不安と回避行動に関する検討 発表準備

4	回避行動の問題 講義	回避行動の機能に関する議論	回避の臨床的意味の検討 発表準備
5	変化する事への抵抗とそれに関する面接者の役割 講義 グループワーク	模擬的な面接の実施、それに関するグループワーク	面接場面の再吟味 発表準備
6	不安症 発表	発表と議論	議論の再検討
7	不安症 発表	発表と議論	議論の再検討
8	うつ 発表	発表と議論	議論の再検討
9	うつ 発表	発表と議論	議論の再検討
10	集団の問題 発表	発表と議論	議論の再検討
11	集団の問題 発表	発表と議論	議論の再検討
12	子どもの問題 発表	発表と議論	議論の再検討
13	子どもの問題 発表	発表と議論	議論の再検討
14	動機づけ面接 模擬面接とグループワーク	模擬面接とグループワーク	面接記録のまとめ
15	授業のまとめ 面接の機能分析 議論	議論	授業の見直し
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 本特論では、参加者に複数回の発表を課す、この発表に関しては専門的なレベルと発表後の議論、質疑応答に関する対応を中心に評価します。全体の70%がこれにあたります。 また議論時の参加の積極性や論理性に関して30%の評価をします。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			

授業科目名	心理学研究法特論		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：兼担教授 ふりがな うめみや 氏名：梅宮 れいか		開講期	前期
			授業回数	15 回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 科学的に探求する論理的思考力を科学哲学における名著である「科学革命の構造」を読み解くことで身につける。	【授業の概要との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）	
Paradigm を概念的に理解する		目標	C
論理的なものの見方で論文が理解できるようになる		目標	C
		目標	
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	科学哲学とは何か？ ガイダンス	担当章わけなど	
2	文献 第1章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
3	文献 第2章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと

4	文献 第3章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
5	文献 第4章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
6	文献 第5章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
7	文献 第6章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
8	文献 第7章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
9	文献 第8章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
10	文献 第9章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
11	文献 第10章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
12	文献 第11章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
13	文献 第12章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を

			通読のこと
14	文献 第13章	担当者のまとめたレジメと発表により授業を進める	担当者はレジメを準備、出席者は文献を通読のこと
15	最終レポートの作成 提出		
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 レジメ＝80点、授業への積極的な参加度＝20点。レジメ発表が複数回の時にはその平均点とする。</p>			
<p>【教科書】 書名：科学革命の構造 著者名：トーマス・クーン 発行所：みすず書房 価格：3024円(税別)</p>			
<p>【参考書】 書名：科学の考え方・学び方 著者名：池内了 発行所：岩波ジュニア新書 価格：907円(税別)</p> <p>書名：歴史としての科学 著者名：村上陽一郎 発行所：筑摩書房 価格：1300円(税別)</p>			
<p>【その他補足事項】 教科書は、高価なので古本を買うことを勧める。</p>			

授業科目名	臨床心理学研究法特論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 准教授 助教 ふりがな すぎやままさひこ 氏名：杉山雅彦 さとうゆうき 佐藤佑貴 きむらやすひろ 木村泰博		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 大学院においては「研究」をすることが求められます。この研究に関して基本的な構成要因から方法を、具体的に明確にしながら、議論をする中で理解をしていきます。特に、各時間でテーマを立て、それに即して各自調べあるいは検討したものを発表、議論する形で授業は進められます。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/> A	知識		
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力		
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力		
	<input type="radio"/> K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）		
研究を行うことに関して基礎的・専門的知識を有する		目標	A	
心理学あるいは臨床心理学の対象に関して多角的、実証的、総合的に理解できる視点を持つ		目標	C,J	
臨床心理学的視点から問題意識を持ち、臨床実践に貢献する研究を実施する基礎的な力を持つ		目標	C,K	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (杉山)	オリエンテーション	研究とは何かに関して検討
2	研究とは (杉山)	研究とは何か、および、研究が成立するための要因に関して議論	研究とは何かに関して授業を踏まえて再検討
3	研究とは (杉山)	研究の質を高め、目標を達成するための要因に関して議論	研究に関して必要なものとは

4	研究を成立させるために (杉山)	研究を成立させるために何が必要かの議論	先行研究を検索することの意味の検討
5	先行研究の意味 (杉山)	先行研究を同県等するか の議論	ケース研究の方法の検討
6	ケース研究の方法論 (杉山)	ケース研究に関する発表およびその意味について発表、議論	ケース検討の方法に関して授業を踏まえて再検討
7	ケース研究の方法論 (杉山)	ケース研究に関する発表およびその意味について発表、議論	研究における「比較」に関して検討
8	「比較」という問題 (木村)	データの比較という問題に関する発表と議論	統計的手法に関する検討
9	統計的手法 (木村)	統計的手法に関する発表および議論	統計的手法に関して授業を踏まえた上で再検討
10	統計的手法 (木村)	統計的手法に関する発表および議論	数値に表れない状況の評価に関して検討
11	臨床場面と数値 (佐藤)	数値に表れない状況の評価に関して発表と議論	質的研究に関する検討
12	質的研究 (佐藤)	質的研究に関する発表と議論	質的研究に関して授業を踏まえた上で再検討
13	質的研究 (佐藤)	質的研究に関する発表と議論	質の検討とそのディスカッションに関して検討
14	合議と質の問題 (佐藤)	合議と質の問題に関する発表と議論	質的研究のまとめ
15	研究に関するまとめ (杉山)	ケース研究、量的研究、質的研究に関する議論	研究法に関するまとめ
<p>【到達度の評価 (評価方法・基準)】 授業期間中数回の発表機会を課します。発表内容に関する評価を70点満点として評価しますが、特に専門性と視点を重視します。 議論の場面に関してその参加状況と内容に関して30点満点で評価します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			

授業科目名	心理統計法特論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤 ふりがな 氏名：和田 裕一 (本務先： 東北大学 職名：准教授)		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 授業の前半では、心理統計学の基本的知識について概説します。後半では、実際の学术论文にみられる統計的手続きやデータ解析、結果の解釈の妥当性や問題点等に関して議論します。具体的には、受講者に自らの研究計画やそれに関連する先行研究の資料やデータを提供してもらい、それを用いて実際に統計解析の実習を取り入れながら、研究計画やデータ解析に関する議論を受講者全員で行います。具体的な進め方については初回授業時に説明します。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
心理学で用いる統計学の基礎知識とその原理について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。		目標	A, C
学术论文で用いられている統計的記述の内容を正しく理解し、データ解析の結果を自分の視点から解釈できるようになることをめざす。		目標	A, B, C
表計算ソフトを用いた基本的な統計処理を会得する。		目標	B, I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	イントロダクション	本講義では教科書は使用せず、講義毎に資料を配付する。	各自の研究テーマについての簡単な紹介を求めるので考えておくこと
2	心理統計学の基礎・尺度水準	パワーポイントと配布資料に基づく解説	
3	記述統計・代表値	パワーポイントと配布資料に基づく解説と、表計算ソフトを用いた実習	前回の確認テストを行うので復習しておくこと

4	散布度・標準化	〃	〃
5	散布図と相関	〃	〃
6	母集団と標本	〃	〃
7	正規分布	〃	〃
8	統計的仮説検定 1	〃	〃
9	統計的仮説検定 2	〃	〃
10	実験計画と分散分析	実際の学術論文などのデータを用いた演習形式	〃
11	分散分析における交互作用と多重比較	〃	〃
12	多変量解析 1：因子分析	〃	〃
13	多変量解析 2：重回帰分析など	〃	〃
14	ノンパラメトリック検定	〃	〃
15	質的データ分析	〃	〃
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 平常点（50%：授業への積極的な取り組みや質疑等への自発的な応答を評価） 期末レポート（50%：具体的な評価項目、評価基準に関しては授業内で説明します） の成績にもとづいて評価します。詳しくは第 1 回目に解説します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。代替教材として講義毎に資料プリントを配付します。</p>			
<p>【参考書】 書 名： よくわかる心理統計 著者名： 山田剛史・村井潤一郎 発行所： ミネルヴァ書房 価 格： 2,800 円(税別)</p>			
<p>【その他補足事項】 上述の授業内容はあくまで暫定的なものであり、受講人数や受講者の研究領域や関心等に応じて変更する場合があります。本授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行います。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付します。各回の授業内容は、進度や状況に応じて変更される場合があります。講義の一部は、表計算ソフト（Excel 等）を用いた実習形式で行うことを予定しています。その際、PC は大学に準備されているものを利用可能であるが、個人所有のノート PC を使用してもよいです。</p>			

授業科目名	発達心理学特論		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	1・2 年次
担当教員	職名：非常勤講師 ふりがな かみやてつじ 氏名：神谷哲司 (本務先：東北大学大学院教育学 研究科 職名：准教授)		開講期	前期集中
			授業回数	15 回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	集中講義ですので、授業時間の前後に気軽にお声がけください。お問い合わせは佐藤専攻主任まで。			

【授業の概要】 青年期に関する基本的な心理学的知見を振り返るとともに、青年期を生涯発達の一過程として位置づけることで、現代日本における「青年期」に対する理解を深めます。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
青年心理学の基礎的な知識を、現代的な青年の問題として位置づける。	目標	A	
発達が社会・文化・歴史・時代に埋め込まれていることを理解する。	目標	A	
現代日本における青年問題を、現代的な生涯発達の枠組みとして理解する。	目標	J	
	目標		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション —現代日本の青年の問題とはなにか?—	授業計画 スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
2	発達理論における青年期	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
3	青年期の歴史的構造	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
4	青年期の基礎的事項 (1) 身体・生理的機能の変化	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく

5	青年期の基礎的事項 (2) 自我とアイデンティティ	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
6	青年期の基礎的事項 (3) 親子関係と仲間関係	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
7	戦後日本における社会変動と家族の変遷	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
8	家族の変遷とジェンダー,ライフコース	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
9	「青年期の終わり」の構造的問題	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
10	青年問題の変遷とその時代的意味(1) —1960-70年代 学生運動—	スライド資料等配布 動画視聴	事前に資料に目を通しておく
11	青年問題の変遷とその時代的意味(2) —1970-80年代 大衆高度消費社会の到来—	スライド資料等配布 動画視聴	事前に資料に目を通しておく
12	青年問題の変遷とその時代的意味(3) —1990年代以降 バブル崩壊と格差社会—	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
13	現代青年を取り巻く現状 —キャリアとはいったいなんなのか—	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
14	生涯発達を切り取る視座 —役割理論の再興と可能性—	スライド資料等配布	事前に資料に目を通しておく
15	まとめと討論	振り返りとディスカッション	講義全体を振り返っておく

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- (1) レポート：講義内容について俯瞰的に要点を理解し、相互に関連付け、講義で扱った現代日本における青年期の特徴についてまとめられているかどうかを評価します(70%)。
- (2) 講義コメント：講義時間の節目ごとに授業内容についての質問、確認、感想をコメントカードに記入してもらい、次の講義時間で活用するとともに評価に用います(30%)。

【教科書】 使用しません。

【参考書】 書名：『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談（中学・高等学校編）』

著者名：長谷川啓三・佐藤宏平・花田里欧子（編著）

発行所：遠見書房

価格：2800円(税別)

書名：『日本の親子』

著者名：柏木恵子・平木典子（編）

発行所：金子書房

価 格：2600 円(税別)

授業科目名	教育心理学特論		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：兼担教授 ふりがな うめみや 氏名：梅宮れいか	開講期	前期	
		授業回数	15 回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。			

<p>【授業の概要】</p> <p>この授業は、教育場面で現れる諸問題に対応するための基礎知識を、人の心理的側面における生涯発達から理解するものです。効果的な教育手法の考察は対象としていませんが、教育環境における人の発達に関して、教育的なアプローチを含みます。</p> <p>教科書を持ちますが、レジメ発表の際には、CiNii で関連論文を検索し、その内容を踏まえた発表をしてください。発表を基に知識を広げる授業とします。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/> A	知識	
	<input type="checkbox"/> B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力	
	<input type="checkbox"/> D	文章表現力	
	<input type="checkbox"/> E	表情及び身体表現力	
	<input type="checkbox"/> F	感性及び感動表現力	
	<input type="checkbox"/> G	協働能力	
	<input type="checkbox"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="checkbox"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力	
<input type="checkbox"/> K	課題対処力		
<input type="checkbox"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
発達臨床から人と教育とのかかわりを理解する	目標	A	
教育場面で諸問題を心理学的に理解する基礎を養う	目標	A	
人の生涯発達と、直面している問題の関係を心理学的に把握する基礎を養う	目標	C	
多様な発達の諸相について理解する基礎を養う	目標	J	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	この講座で学ぶ内容の把握 講座運営についての説明 CiNii のつかいかた	福島駅前図書館の情報検索端末を実際に操作する	初回のみ、宮代受講生も駅前に集合のこと
2	教育心理学と発達臨床	講義	予習：教科書の通読 復習：教科書の理解と疑問点の整理

3	生涯発達	教科書第1章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理
4	乳幼児期の発達	教科書第2章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理
5	発達障害と臨床的援助	教科書第3章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理
6	児童期・思春期の発達と教育環境	教科書第4,5章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理
7	思春期の性の発達と LGBT	講義 DVD「僕のバラ色の人生」 30分	予習：用語の 理解 復習：ノート の整理
8	スクールカウンセラーの機能と援助サービス	教科書第6章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理
9	青年期の発達	教科書第7章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理
10	青年期の心理障害と精神病理	教科書第8章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理
11	大学生の発達と学生相談	教科書第9章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理

12	家族臨床と教育	教科書第11章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理
13	老年期の発達	教科書第12章 レビュー発表とディス カッション	予習：レジメ の作成 復習：教科書 の理解と疑問 点の整理
14	総ディスカッション	ディスカッション	予習：テーマ に関する情報 の整理 復習：知識の 整理
15	最終レポートの作成	課題は14 回目に発表す る 個別の質問を含めた、知 識の確認を含む	予習：課題に 関する情報の 収集
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 各回のレジメ5点満点（計50点満点）、総ディスカッションの発言内容25点満点、最終レポート25点満点とし、総計100点満点で評価します。なお、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う場合があります。</p>			
<p>【教科書】書名：教育心理学〈2〉発達と臨床援助の心理学 著者名：下山晴彦 発行所：東京大学出版会 価格：3,132円（税別）</p>			
<p>【参考書】書名：教育心理学キーワード 著者名：森敏昭・秋田喜代美（編） 発行所：有斐閣双書 価格：2,052円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】 ・教科書の理解と共に、CiNiiでの論文検索は必ず行ってください。先行研究のレビューがしっかりされているレジメ、発言を高く評価します。 なお、CiNiiの検索の仕方は、初回に説明しますので、宮代で受講を予定している学生も駅前に集合してください。 ・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。 ・本科目は、平成31年度より公認心理師対応科目となります。</p>			

授業科目名	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな わたなべあつこ 氏名：渡部敦子		開講期	夏期集中
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本授業では、現代家族の様相について様々な側面から解説していきます。さらに家族を理解し支援する理論と技法について実践を交えながら学んでいきます。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
家族とは何かについて説明できる。		目標	A
家族システム理論について理解できる。		目標	A、J
家族を支援する理論の基礎を理解する。		目標	A、B、J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	家族とは何か 家族心理学とはどのような学問か	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
2	家族の発達	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
3	夫婦関係、親子関係、きょうだい関係	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
4	父性・母性とは 虐待	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む

5	家族をとりまくさまざまな問題	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む レポート作成
6	家族アセスメントの方法	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
7	家族システム論(1) システム論とはどのような考え方か	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
8	家族システム論(2) 事例をもとに考えてみる	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む レポート作成
9	多世代派家族療法	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
10	構造派家族療法	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
11	コミュニケーション派家族療法(1) コミュニケーションについて考える	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
12	コミュニケーション派家族療法(2) 実際の進め方	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
13	短期療法 解決志向アプローチ	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
14	ナラティブセラピー	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む
15	まとめ 視点を地域に広げて～コミュニティアプロ ーチ	配布資料 ディスカッション	配布資料を読む まとめレポート 作成
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 授業への参加態度（ディスカッションへの積極性、授業内容の理解度）40% 小レポート（随時行います）20% まとめレポート40%</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			
<p>【参考書】 書 名：家族療法の秘訣 著者名：東豊 発行所：日本評論社 価 格：2400 円(税別)</p>			
<p>【その他補足事項】 ・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。</p>			

授業科目名	職場メンタルヘルス特論	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名： 兼担教授 ふりがな 氏名： 茂木 積雄	開講期	後期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了	専門科目	選択	
臨床心理士	専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。		

【授業の概要】 現在の企業および産業医が最も対応に難渋し、しかも早急に取り組むべき喫緊の課題である職場のメンタルヘルスの現状と対策に関する基本的な理解を深め、臨床心理学の専門職としての立場から、他職種とチーム医療を推進する上で効果的な心理的支援を行うための知識の習得を目指します。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/> A	知識		
	<input type="radio"/> B	技術・技能		
	<input type="radio"/> C	論理的思考力		
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力		
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)			
・種々のストレスがメンタルヘルスに及ぼす影響の基本的事項に関して、自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A, C		
・職場のメンタルヘルス対策の重要性について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A, C		
・医療及び産業保健の現場で、患者と労働者のメンタルヘルス対策を進める上での課題と問題点についての理解を深める。	目標	A, C, J		
・ストレスチェック制度が導入された経緯を理解するとともに、ストレスチェック制度の概要・実施方法・問題点、等に対する理解を深める。	目標	A, B, C		
	目標			

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と目標 (授業内容) ・評価方法・授業の進め方の留意点	授業計画	

2	産業保健活動の標準的プロセス ・リスクアセスメントの目的と方法 ・生物学的健康障害要因の把握	プリント配布：「職場で問題となる感染症」	結核・インフルエンザ・ノロウイルス感染症の予防と蔓延防止策を考える。
3	(安全) 衛生委員会 ・目的と役割 ・安全衛生目標の基本 ・年間目標と評価	プリント配布「産業医と健康管理スタッフの役割」	職場環境と健康管理の基本を理解する。
4	今職場で起こっていること ・ストレスを感じている労働者の増加	DVD 視聴 (60分) 「長時間労働と過労死」 (映像利用)	現在注目されている労働問題の概要を理解する。
5	職場におけるストレス ・職場環境と心理的ストレス ・ストレスの自己管理と健康管理スタッフの役割	プリント配布「心理的ストレスの種類と発生要因」	職場におけるストレスの概要と緩衝要因についての理解を深める。
6	心理的ストレスと身体反応 ・心身症の種類と病態	DVD 視聴 (30分) 「ストレスとストレス反応 (映像利用)」	心理的ストレスが身体に及ぼす影響を考える。
7	職場のメンタルヘルス対策 (総論) ・メンタルヘルス関連のキーワード	プリント配布「メンタルヘルス関連のキーワードについて」	メンタルヘルスと関連したキーワードの概要を理解する。
8	職場でみられる精神疾患 (1) ・うつ病 ・新型うつ病 (現代型うつ病)	DVD 視聴 (30分) 「うつ病の治療」 (映像利用)	うつ病の症状・特徴・治療の基本的事項を理解する。
9	職場でみられる精神疾患 (2) ・適応障害 ・不安障害 ・アルコール依存症	プリント配布「アルコール依存症と肝障害」	それぞれの疾患の特徴について考える。

10	<p>職場復帰支援プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の目的、留意点および限界 ・ 健康管理スタッフの役割とラインケア 	<p>プリント配布「職場復帰支援プログラムの事例（仮想）」</p>	<p>患者心理に基づいた支援のたて方を考える。</p>
11	<p>過重労働と夜勤労働者の労働管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残業時間と過労死の関係 ・ 交替制勤務および夜勤業務者の健康問題 	<p>プリント配布「交替性勤務および夜勤業務が心身の健康に及ぼす影響」</p>	<p>過重労働が心身におよぼす影響について理解する。</p>
12	<p>ストレスチェック制度（総論）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 制度導入となった社会的背景の概要 ・ ストレスチェック制度の概要 	<p>プリント配布「パワハラ対策と企業の生産性」</p>	<p>ストレスチェック制度の概要を理解する。</p>
13	<p>ストレスチェック制度の実施（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的実施方法の概要 ・ 面接指導、事後措置、集計と分析 	<p>プリント配布「ストレスチェック制度の流れ」</p>	<p>ストレスチェック制度を実施する上での問題点について考える」</p>
14	<p>ストレスチェック制度の実施（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施項目の概要 ・ ストレスチェックの実習 	<p>プリント配布「職業性ストレス簡易調査票」</p>	<p>職業性ストレス簡易調査票の概要を理解する。</p>
15	<p>まとめ</p>	<p>スライド（パワーポイント）「職場のメンタルヘルス対策」</p>	<p>既習内容のポイントを再確認する。</p>
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) レポート：レポートは70点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とします。</p> <p>(2) その他：授業内容の理解度を確認するために記述式の小テストを数回実施する(30点満点)。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とします。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。プリントを配布します。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>①書 名：職場のメンタルヘルス対策最前線 著者名：中村 純 発行所：昭和堂 価 格：1700円（税別）</p>			

②書名：心が折れる職場

著者名：見波利幸

発行所：日本経済新聞出版社

価格：850円（税別）

③書名：学校・職場のメンタルヘルスの実践と応用

著者名：牧野真理子

発行所：新興医学出版社

価格：2700円（税別）

【その他補足事項】

- ・授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。
- ・本科目は、平成31年度より公認心理師対応科目となります。

授業科目名	発達障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：兼担教授 ふりがな いたがき けんたろう 氏名：板垣 健太郎		開講期	前期
			授業回数	15 回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。		

【授業の概要】 発達障害について、その概念、診断、原因、援助原理について学びます。履修者がテーマを分担し、関係文献・著書に基づいてレジュメを作成して発表し合うことを中心に授業を展開します。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
・発達障害児の概念、診断、原因について知る。			目標	A、J
・発達障害児に対する援助原理を知る。			目標	A、J
・発達障害児の家族に対する援助の考え方と援助的関わりについて知る。			目標	A、J
・発達障害の支援に関する公認心理師の役割について知る。			目標	A、J

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	・授業説明 ・テーマ分担	シラバス使用 「テーマ分担表」	
2	・知的障害1：概念、行動特徴	講義(レジュメ使用)	レジュメに基づく、予習と復習
3	・知的障害2：原因	〃	〃

4	・知的障害3：援助原理	〃	〃
5	・自閉症スペクトラム1：用語と概念、行動特徴	発表（レジュメ使用） 質疑応答	テーマに関する予習、復習、 発表準備
6	・自閉症スペクトラム2：原因	〃	〃
7	・自閉症スペクトラム3：査定、診断	〃	〃
8	・自閉症スペクトラム4：援助原理	〃	〃
9	・注意欠陥多動性障害1：概念、診断	〃	〃
10	・注意欠陥多動性障害2：原因・病理	〃	〃
11	・注意欠陥多動性障害3：援助原理	〃	〃
12	・学習障害：原因・病理	〃	〃
13	・保護者への援助	〃	〃
14	・発表や質疑の補充1 公認心理師の役割	ディスカッション	テーマに関する予習、復習
15	・発表や質疑の補充2 公認心理師の役割	〃	〃
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当したテーマについてのレジュメと発表内容の的確性により評価します。 ・遅刻・早退1回につき1点の減点、欠席1回につき3点の減点します。 			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			
<p>【参考書】 必要に応じて、文献・書籍を紹介、提供します。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。 			

授業科目名	発達障害児心理学演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼担教授 ふりがな いたがきけんたろう 氏名：板垣健太郎		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。		

【授業の概要】 発達障害児の個別療育的セラピー、保護者や兄弟姉妹への援助、他機関との連携の実際について学びます。履修者でテーマを分担し、関係文献・著書を調べ、レジュメを作成して発表し合う形式で進めます。授業内容は基本的には「授業内容」とおりましたが、履修者の臨床に関する知識や経験に応じて、より必要なものに変更していく予定です。	【授業の概要との対応項目】			
	○ A	知識		
	B	技術・技能		
	C	論理的思考力		
	D	文章表現力		
	E	表情及び身体表現力		
	F	感性及び感動表現力		
	G	協働能力		
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力		
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力		
	○ J	多様性への理解力、応用力		
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
・発達障害の療育的関わりの考え方や実際の方法について理解する。			目標	A、J
・発達障害児を持つ家族への援助の考え方や実際について理解する。			目標	A、J
・他機関との連携についての考え方や実際について知る。			目標	A、J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業説明、テーマの分担		
2	心理臨床相談センターの施設・設備・業務	説明と見学研修	
3	療育的セラピーの考え方	講義(レジュメ使用)	テーマに即した予習と復習
4	療育的セラピーの進め方	〃	〃

5	療育的セラピーの計画とプログラム、記録	〃	〃
6	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー1 ～目的	発表と質疑応答	〃、発表準備
7	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー2 ～心理診断、	〃	〃
8	自閉症スペクトラム障害児の療育的セラピー3 ～内容	〃	〃
9	注意欠陥多動性障害の療育的セラピー	〃	〃
10	「問題行動」の捉え方と対処法	〃	〃
11	心理職と保育職の連携	発表とディスカッション	〃
12	心理職と他機関の連携	〃	〃
13	保護者援助	〃	〃
14	対象でない子ども（兄弟姉妹）への配慮・ ケア	〃	〃
15	補充ディスカッション	ディスカッション	〃
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当したテーマについてのレジュメと発表内容の的確さにより評価します。 ・遅刻・早退1回につき1点、欠席1回につき3点減点します。 			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			
<p>【参考書】 必要に応じて、文献・書籍を紹介、提供します。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。 ・本科目は平成29年度以前入学生対象の科目です。 			

授業科目名	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	1・2 年次
担当教員	職名： 教授 ふりがな ほしのよしひこ 氏名： 星野仁彦		開講期	前期集中
			授業回数	15 回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60 時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		詳しくは初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせ等は研究室（駅前キャンパス E301）へ お願いします。		

【授業の概要】 各種の精神障害—特に発達障害、不安障害（神経症）、うつ病、気分障害、認知症、嗜癖行動、人格障害、統合失調症などの臨床症状、病態と原因、医学的治療法、心理療法、家庭療法、行動療法、リハビリテーションなどについて基礎的、臨床的知識を深めます。	【授業の概要との対応項目】		
	○ A	知識	
	B	技術・技能	
	C	論理的思考力	
	D	文章表現力	
	E	表情及び身体表現力	
	F	感性及び感動表現力	
	G	協働能力	
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	J	多様性への理解力、応用力	
K	課題対処力		
L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）	
精神医学の基礎的、臨床的知識を身につける。		目標	A
病理にあわせた支援法について知る。		目標	A
病理についてのイメージを深める。		目標	A, I
保健医療分野における公認心理師の役割と実践について知る。		目標	A

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	発達障害—特に自閉症スペクトラム障害について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジュメ）	下欄に示す各種ビデオ（星野研究室）に目を通しておくこと

2	発達障害 —特に注意欠陥/多動性障害と学習障害について	資料（レジюме）	ビデオ「心の トラブルVol.3 —注意欠陥/多 動性障害 （ADHD）」 （30分）
3	発達障害 —特にアスペルガー障害と高機能自閉症について	資料（レジюме）	発達障害につ いて事後学習 を行い、状態 像・対応等に ついて理解を 深めること
4	不安障害 —特にパニック障害、社会不安障害、 強迫性障害について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме）	ビデオ「心の トラブルVol.8 —強迫性障 害」（30分） ビデオ「心の トラブルVol.9 —パニック障 害」（30分）
5	不安障害 —特にPTSD、離人症、解離性障害について	資料（レジюме）	
6	うつ病・（気分障害）、双極性障害 その① 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме）	ビデオ「心の トラブルVol.6 —気分障害」 （30分）
7	うつ病・（気分障害）、双極性障害 その②	資料（レジюме）	ビデオ「心の トラブルVol.4 —双極性障 害」（30分）
8	認知症 —特に脳血管性とアルツハイマー型について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме）	ビデオ「心のトラ ブルVol.1—アル ツハイマー型認知 症」（30分）
9	認知症—その他	資料（レジюме）	
10	依存症と嗜癖行動 —特にアルコール、薬物依存について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме）	

11	依存症と嗜癖行動 —特にギャンブル、浪費、恋愛、過食、自傷行為について	資料（レジюме）	ビデオ「心のトラブルVol.7—摂食障害」（30分）
12	パーソナリティ障害 —特に境界性、自己愛性、反社会性について 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме）	ビデオ「心のトラブルVol.2—反社会性人格障害」（30分）
13	パーソナリティ障害 —特に回避性、依存性、強迫性について	資料（レジюме）	
14	統合失調症 —その臨床症状と病態 本障害における公認心理師の役割と実践	資料（レジюме）	ビデオ「心のトラブルVol.12—統合失調症（精神分裂病）」（30分）
15	統合失調症 —その医学的治療とリハビリテーション	資料（レジюме）	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 授業態度（意欲・積極性）40% 毎回の授業内レポート（授業内容の理解度）60%により判断します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。プリントを配布します。</p>			
<p>【参考書】 書名：改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第1巻 精神医学 著者名：小阪憲司他（編） 発行所：へるす出版 価 格：2,940円（税別）</p> <p>書名：改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学 著者名：谷野亮爾他（編） 発行所：へるす出版 価 格：3,150円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】 ・本科目は、こども心理専攻との共通科目です。</p>			

授業科目名	精神薬理学特論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名： 兼担教授 ふりがな もてき せきお 氏名： 茂木 積雄		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了			選択	
臨床心理士			選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		詳しくは初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。		

【授業の概要】 医療、介護、保健、福祉および産業衛生などの現場でしばしば遭遇する精神神経疾患の特徴と薬物療法の実際についての理解と知識を深めることにより、臨床心理学の専門職としての専門性を発揮し、多職種と連携してチーム医療の一翼をになうための基礎的素養を醸成します。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
・代表的な精神神経疾患の種類と特徴などを自分の言葉で説明できるようになる。			目標	A, C
・精神神経疾患における薬物療法の目的、重要性および意義などについて自分の視点で論じることができるようになる。			目標	A, C
・他職種とのチーム医療を効果的に推進するために必須となる、主な精神神経疾患の概要と薬物療法の基礎的事項についての理解を深める。			目標	A, C, G
			目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と目標(授業内容) ・評価方法、授業の進め方の留意点 ・薬が作用する仕組み	授業計画 プリント配布「薬と受容体」	受容体を介して薬が作用する仕組みを理解する。
2	自律神経系と関連した薬と主な疾患 ・交感神経と副交感神経	DVD 視聴(20分)「自律神経失調症」(映像利用)	自律神経の働きと関連する

	<ul style="list-style-type: none"> 自律神経作動薬と遮断薬 		薬の概要を理解する。
3	心身症（1） <ul style="list-style-type: none"> 心身症と関連した疾患 生活習慣病 	DVD 視聴（20分）「心身症の最近の考え方」（映像利用）	心身症の定義と概要を理解する。
4	心身症（2） <ul style="list-style-type: none"> 過敏性腸症候群 機能性ディスぺプシア 	プリント配布	心身症に含まれる消化器疾患について考える。
5	心身症（3） <ul style="list-style-type: none"> 気管支喘息 アトピー性皮膚炎 	プリント	アレルギー疾患の概要と治療薬について理解する。
6	ストレス関連疾患 <ul style="list-style-type: none"> 片頭痛 円形脱毛症 	プリント配布	頭痛の種類・症状・治療薬の作用機序について理解する。
7	アルコール依存症 <ul style="list-style-type: none"> アルコール依存症の病因と疫学 アルコール依存症の治療 アルコール性肝障害 	プリント配布「アルコール性肝障害の終末像」	アルコールが心身に及ぼす影響について理解する。
8	睡眠障害 <ul style="list-style-type: none"> 睡眠障害の種類と特徴 睡眠薬の薬理作用 睡眠薬の副作用 	DVD 視聴（30分）「睡眠障害の治療法」（映像利用）	睡眠薬の種類と特徴を理解する。
9	抗うつ薬 <ul style="list-style-type: none"> 分類・薬理作用・副作用 うつ病の種類と特徴 	DVD 視聴（30分）「うつ病の薬物治療」（映像利用）	うつ病の分類と薬物療法の概要を理解する。
10	統合失調症と躁うつ病 <ul style="list-style-type: none"> 疾患の概念、疫学、症状 治療導入 薬物療法と心理社会的治療 	DVD 視聴（30分）「統合失調症」（映像利用）	統合失調症と躁うつ病の治療薬の基礎を理解する。
11	パニック障害・強迫性障害・適応障害 <ul style="list-style-type: none"> 疾患の概念 薬物治療 過換気症状と血液ガス検査 	プリント配布「過換気症候群をきたした事例（仮想）の紹介」	各々の疾患の特徴と治療法について考える。

12	認知症 ・疾患の概念、疫学、症状、病態 ・薬物治療と心理社会的治療 ・生活習慣病との関連	DVD 視聴 (30 分) 「認知症の予防と最新の治療」(映像利用)	認知症の種類と治療法の概要を理解する。
13	てんかんとパーキンソン病 ・疾患と概念 ・薬物治療 ・てんかん発作時の薬物療法	DVD 視聴 (30 分) 「パーキンソン病の病態と薬物療法」(映像利用)	両疾患の特徴と治療薬の基礎を理解する。
14	高齢者の薬物治療 ・老年期の患者の薬物動態と副作用 ・せん妄への対応、向精神病薬の副作用 ・睡眠障害の治療薬と副作用	DVD 視聴 (30 分) 「急増する無認可介護保険関連施設」(映像利用)	高齢者における薬物療法の注意点を理解する。
15	まとめ	振り返り資料	既習内容のポイントを再確認
<p>【到達度の評価 (評価方法・基準)】</p> <p>(1) レポート：レポートは70点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とします。</p> <p>(2) その他：授業内容の理解度を確認するために小テストを実施する (合計 30 点満点)。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とします。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。プリントを配布します。</p>			
<p>【参考書】 書 名： イラストでまなぶ薬理学 著者名： 田中越朗 発行所： 医学書院 価 格： 2600 円 (税別)</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>・授業の進捗程度等により、授業内容を変更する場合があります。</p> <p>・本科目は平成 29 年度以前入学生対象の授業です。</p>			

授業科目名	グループ・アプローチ特論	授業形態・単位数	講義・2単位
		開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 ふりがな きし よしのり 氏名：岸 良範	開講期	後期集中
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
修了			選択
臨床心理士			選択
オフィスアワー・メールアドレス等		詳しくは初回授業時に説明します。	

【授業の概要】 集団の中で成長していく人間の姿を、従来の研究を通じて理解・検討し、さらにその実践をしていきます。	【授業の概要との対応項目】	
	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="checkbox"/> B	技術・技能
	<input type="checkbox"/> C	論理的思考力
	<input type="checkbox"/> D	文章表現力
	<input type="checkbox"/> E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/> G	協働能力
	<input type="checkbox"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/> K	課題対処力
<input type="checkbox"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
グループ・アプローチの理論について知る。	目標	A
他者との関係及びグループの中で、次第に姿を現す自己、及び他者の姿に気づき、相互の関係の在り方を理解できるようになる。	目標	A,F,I,J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	グループ・アプローチの理論 1	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
2	グループ・アプローチの理論 2	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
3	グループ・アプローチの種類 1	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究

4	グループ・アプローチの種類 1	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
5	ここまでのまとめとフィードバック	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
6	グループワークの実践 芸術療法の技法を使ったグループワーク 1	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
7	グループワークの実践 芸術療法の技法を使ったグループワーク 2	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
8	グループワークの実践 芸術療法の技法を使ったグループワーク 3	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
9	グループワークの実践 芸術療法の技法を使ったグループワーク 4	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
10	グループワークの実践 芸術療法の技法を使ったグループワーク 5	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
11	グループワークの実践 芸術療法の技法を使ったグループワーク 6	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
12	グループワークの実践 対話を通じてのグループワーク 1	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
13	グループワークの実践 対話を通じてのグループワーク 2	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
14	グループワークの実践 対話を通じてのグループワーク 3	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
15	まとめと全体を通じてのフィードバック	随時グループによる話し合いをし、全体での討論を行う	レジュメ・文献による理論研究
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 毎回のフィードバック（50%）と最終レポート（50%）によって評価します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。毎回レジュメ・資料を用意します。</p>			
<p>【その他補足事項】 ・本科目は平成 29 年度以前入学生対象の授業です。</p>			

授業科目名	心理療法特論		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	1・2 年次
担当教員	職名：非常勤講師 <small>ふりがな</small> 氏名：渡部純夫 <small>わたべすみお</small> (本務先：東北福祉大学総合福祉学部 福祉心理学科 職名：教授)		開講期	前期集中
			授業回数	15 回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		集中講義ですので、授業時間の前後お声がけください。 ※事前の問い合わせは佐藤専攻主任まで。		

【授業の概要】 心理療法の一つである「箱庭療法」について、基本を学び、作品制作を通して「箱庭療法」の理論と、その活用の仕方・可能性・限界・留意点などについて、身につけていきます。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
箱庭療法理論が理解でき、説明が出来るようにする。	目標	A	
実際に箱庭に触れることで、箱庭療法の統合性や空間配置の意味などについて、理論的根拠に基づく説明が出来るようにする。		A,F,I,J	
	目標		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	心理療法における箱庭療法の位置づけ		授業内容について考えをまとめる
2	箱庭療法の技法について	教科書(pp.3-13)	授業内容について考えをまとめる

3	箱庭療法の理論的背景1	教科書(pp.14-30)	授業内容について考えをまとめる
4	箱庭療法の理論的背景2	教科書(pp.14-30)	授業内容について考えをまとめる
5	箱庭療法の理論的背景3	教科書(pp.14-30)	授業内容について考えをまとめる
6	作品制作と見方の検討1	制作と全体討議	作品について考えをまとめる
7	作品制作と見方の検討2	制作と全体討議	作品について考えをまとめる
8	作品制作と見方の検討3	制作と全体討議	作品について考えをまとめる
9	作品制作と見方の検討4	制作と全体討議	作品について考えをまとめる
10	作品制作と見方の検討5	制作と全体討議	作品について考えをまとめる
11	作品制作と見方の検討6	制作と全体討議	作品について考えをまとめる
12	作品制作と見方の検討7	制作と全体討議	作品について考えをまとめる
13	事例を通して物語としての箱庭を読む1	全体討議	物語について考えをまとめる
14	事例を通して物語としての箱庭を読む2	全体討議	物語について考えをまとめる
15	まとめ		授業で学んだことを整理する

【到達度の評価（評価方法・基準）】

授業参加態度（意欲・発言・主体性）50%

発言の内容（的確な理解・ポイントの押さえ方）50%

【教科書】書名：箱庭療法入門

著者名：河合隼雄編

発行所：誠信書房

価格：2,000円（税別）

書名：こころのケアの基本

著者名：小俣和義編著

発行所：北樹出版

価格：2,300円（税別）

【参考書】書名：現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学

著者名：小松 紘・木村 進編

発行所：八千代出版

価格：3,000円＋税

授業科目名	臨床心理地域援助特論		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	2 年
担当教員	職名：非常勤講師 <small>ふりがな</small> 氏名：須田 誠 <small>すだまこと</small> (本務先: 東京未来大学こども心理学部 こども心理学科 職名：准教授)		開講期	後期集中
			授業回数	15 回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本講義では、とりあげる心理療法の学派における基本的な考え方や、心理療法での対話の基盤にあるセラピストの基本的なスタンスを理解することを目標とします。そのために、心理療法における具体的介入を取り上げ、どのような認識論から、どのような意図と技法をもってその実践を行っているのかを検討します。あわせて、クライアントの語りを大切にしつつ、クライアントが属するシステム、コミュニティ、社会文化をも視野に入れることを学びます。エクササイズの体験をもとに、促進的な態度・スキルを身につけ、自分のものの見方や拠って立つ理論を自覚して照らし合わせます。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
心理臨床におけるコミュニティ・アプローチを理解する。		目標	A
コミュニティ心理学の鍵概念(コンサルテーション等)を理解する。		目標	A
コミュニティ・アプローチの発想で心理臨床の事例を読み解く。		目標	A,J,K
講義・発表・討議において、他者の言葉を丁寧に聴き取る。		目標	J
発表において、説得力を持って簡潔に専門的内容を伝える。		目標	I
討議において、積極的な参加・関与の態度を取る。		目標	I,J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	本科目全体の説明および講義:コミュニティ・アプローチとは?	授業の進め方についての導入	シラバスを熟読の上、疑問があれば初回時に確認をすることに確認すること

2	環境に影響を受ける人間の心理と行動	テーマに関するディスカッション	第1回で配布した資料を読み込むこと
3	講義と討議:事例「対人不安」の解説	テーマに関するディスカッション	第2回で配布した資料を読み込むこと
4	講義と討議:事例「自殺予防」の解説	テーマに関するディスカッション	第3回で配布した資料を読み込むこと
5	講義と討議:事例「発達障害」の解説	テーマに関するディスカッション	第4回で配布した資料を読み込むこと
6	講義と討議:事例「喪の作業」の解説	テーマに関するディスカッション	第5回で配布した資料を読み込むこと
7	講義と討議:事例「虐待」の解説	テーマに関するディスカッション	第6回で配布した資料を読み込むこと
8	講義と討議:事例「非行」の解説	テーマに関するディスカッション	第7回で配布した資料を読み込むこと
9	発表と討議(1):受講生による事例論文の報告と討議	テーマに関するディスカッション	事例論文を読み込むこと
10	発表と討議(2):受講生による事例論文の報告と討議	テーマに関するディスカッション	事例論文を読み込むこと
11	発表と討議(3):受講生による事例論文の報告と討議	テーマに関するディスカッション	事例論文を読み込むこと
12	発表と討議(4):受講生による事例論文の報告と討議	テーマに関するディスカッション	事例論文を読み込むこと
13	発表と討議(5):受講生による事例論文の報告と討議	テーマに関するディスカッション	事例論文を読み込むこと
14	発表と討議(6):受講生による事例論文の報告と討議	テーマに関するディスカッション	事例論文を読み込むこと
15	講義と討議:コミュニティ心理学における倫理、まとめ	テーマに関するディスカッション	第15回で配布した資料を読み込むこと

【到達度の評価（評価方法・基準）】

受講態度（討議への貢献度や適格さや積極性等） 30%

プレゼンテーション（発表資料の内容や工夫等） 30%

課題（レポート等） 40%

成績評価基準：

- (1) コミュニティ心理学における鍵概念（キーワード；コンサルテーションや連携や危機介入等）を理解できているかどうかを重視します。
- (2) 心理臨床の事例をコミュニティ・アプローチの発想で捉えることができているかどうかを重視します。
- (3) 発表や討議に際して、他者の話を丁寧に聴き、かつ、他者に説得力を持って簡潔に専門的内容を伝えるというコミュニケーション・スキルを重視します。

【教科書】特に指定しない。適宜、資料を配布する。

【参考書】書名：コミュニティ心理学 地域臨床の理論と実践

著者名：山本和郎

発行所：東京大学出版会

価格：3,000円＋税

書名：危機介入とコンサルテーション

著者名：山本和郎

発行所：ミネルヴァ書房

価格：2,500円＋税

書名：コミュニティ・アプローチ

著者名：高島克子

発行所：東京大学出版会

価格：2,800円＋税

書名：よくわかるコミュニティ心理学

著者名：植村勝彦・高島克子他

発行所：ミネルヴァ書房

価格：2,500円＋税

その他、適宜紹介する。

【その他補足事項】

(1) 第1回から第8回までが講義が中心、第9回から第14回が受講生による報告が中心である。報告は、個人ないしグループによるテキスト担当箇所および心理臨床の事例研究論文を「コミュニティ・アプローチ」の発想で読み解き、発表することとする。受講者数に応じて個人報告とするかグループ報告とするかを決定する。尚、討議は全回を通して行う。

(2) 事例を多く取り上げる。当事者および関係者から公表の許可を得ているものだが、受講生は講義時間外で他言しない等の守秘義務を負うこと。

(3) 映像資料を取り上げることもあるが、映像資料は情報量が多いため、少しでも見逃すと展開が読めなくなる。そのため、体調管理を万全にし、明瞭な意識で講義に臨むこと。

授業科目名	学校臨床心理学特論		授業形態・単位数	講義・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな <small>すぎやままさひこ</small> 氏名：杉山雅彦	開講期	前期	
		授業回数	15 回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>【授業の概要】</p> <p>学校という複雑な状況の中で、何が起きているのかあるいは心理学的には何が起きていると考えられるかに関して検討し、そういった状況に関してどのような関係、相互作用が成立し、機能するかに関して理解していきます。その上でケーススタディを行い、様々な状況あるいは問題に関して臨床心理学がどのような貢献をすることが出来るかを検討します。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
学校に関して臨床心理学的に基礎的、専門的な知識を習得する		目標	A,B
学校を多角的、実証的、総合的に理解する視点を持つ		目標	C,J
学校という状況に基づいて見立て及び介入するための基本的な力を養う		目標	B,K
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	オリエンテーション	学校という状況に関する検討
2	学校という状況の分析	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	内容の見直し 教師に関する検討
3	教師の機能	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	内容の見直し 幼児、児童期の検討

4	幼児期と小学校	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	内容の見直し 中学校の特徴の検討
5	中学校	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	内容の見直し 高校の特徴の検討
6	高校	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	内容の見直し 集団に関する検討
7	集団と行動の分析	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	内容の見直し 不登校の検討
8	不登校	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	内容の見直し ケースの検討
9	不登校ケーススタディ	ケース検討、議論	ケースの見直し いじめの検討
10	いじめ	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	内容の見直し ケースの検討
11	いじめケーススタディ	ケース討論、議論	ケースの見直し 学級崩壊の検討、ケース検討
12	学級崩壊	ケース討論、議論	ケースの見直し 不良行為に関する検討
13	不良行為、粗暴行為	資料配付と講義、および学校という状況の特徴に関する議論	内容の見直し、ケースの検討
14	不良行為ケーススタディ	ケース討論、議論	ケースの見直し
15	学校という状況のまとめ	学校という状況の特徴と子どもに与える影響の議論	授業の見直し
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 授業期間中に、学校という状況に関するレポートを課します。学校という状況の理解、臨床的な介入に関する分析という観点から評価します。このレポートの評価を60%とします。 討論、議論への参加に関して、積極性、論理性、を主として評価します。この評価を40%とします。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			

授業科目名	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践の意義)	授業形態・単位数	演習・2単位
		開講年次	1年次
担当教員	職名：助教 ふりがな きむら やすひろ 氏名：木村 泰博	開講期	前期
		授業回数	15回
		期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別
修了		専門科目	必修
臨床心理士		専門科目	必修
公認心理師		専門科目	必修
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。	

【授業の概要】 ①公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義 ②心理的アセスメントに関する理論と方法 ③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
心理的アセスメントに有用な情報(生育歴や家族の状況等)及びその把握の手法等について概説できる。		目標	A, B, C
心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について、その内容を概説することができ、行うことができる。		目標	A, B, C
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標 評価方法・授業の進め方の留意点 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義	授業計画 補足資料	
2	心理的アセスメントに関する理論と方法 心理的アセスメントの実践	補足資料	事前に補足資料を読む

3	第1章精神科臨床の現場より	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
4	第2章標準化という大きな課題	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
5	第3章心理アセスメントとは？	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
6	第4章関係の上に成立しているアセスメント	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
7	第5章精神分析とクライエント中心療法	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
8	第6章診断（見立て）と要約	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
9	第7章トリアージ1	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
10	第8章トリアージ2	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
11	第9章病態水準	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
12	第10章疾患にまつわる要素	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
13	第11章パーソナリティと発達	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
14	第12章生活の実際と第七の視点	発表、ディスカッション	担当箇所をまとめてくる
15	レポートを書く技術	発表、ディスカッション	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 ①発表 60% 担当回の発表の内容や質 ②演習の取り組み 40%</p>			
<p>【教科書】 書名：精神科臨床における心理アセスメント入門 著者名：津川律子 発行所：金剛出版 価格：2600円(税別)</p>			
<p>【参考書】 書名：心理アセスメントレポートの書き方 著者名：E.O.リヒテンバーガー他，上野一彦監訳 発行所：日本文化科学社 価格：3400円(税別)</p>			
<p>【その他補足事項】 参考資料として、「公認心理師現任者講習会テキスト」を用いる。</p>			

授業科目名	臨床心理査定演習Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな わたなべつとむ 氏名：渡邊 勉	開講期	後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	必修	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 投影法人格検査（主にロールシャッハ法、SCTおよびバウム・テスト）の理論および実施法、分析法、解釈法を学ぶ。まず受講生自身が被検査者体験をもち、その後に検査者として検査を実施する。施行後は個別指導を中心として、心理検査報告書を作成する。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
○	K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）	
心理査定の施行に関わる倫理を理解し、実践できる		目標	L
心理査定の施行から分析・解釈、報告書作成、フィードバック・セッションまでの一連の流れを理解し、実施できる		目標	A、B、D、I
心理査定の施行・解釈に関わるパーソナリティ理論を理解し、説明できる		目標	A、B
ロールシャッハ・テストその他の投射法を臨床場面で施行できる		目標	B、K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 投影法について	資料配布 全体討議	資料学習
2	SCT・バウムテスト(描画法)	資料配布 全体討議	資料学習 担当者準備
3	ロールシャッハ法① 実施法・カード図版について	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備

4	ロールシャッハ法② 反応領域	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
5	ロールシャッハ法③ 反応決定因（形態・運動）	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
6	ロールシャッハ法④ 反応決定因（色彩・陰影）	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
7	ロールシャッハ法⑤ 反応内容	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
8	ロールシャッハ法⑥ 形態水準	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
9	ロールシャッハ法⑦ スコアリング演習	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
10	ロールシャッハ法⑧ サマリー作成	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
11	ロールシャッハ法⑨ 解釈演習 1	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
12	ロールシャッハ法⑨ 解釈演習 2	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
13	ロールシャッハ法⑪ 事例研究 1	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
14	ロールシャッハ法⑫ 事例研究 2	資料配布 担当者発表	資料学習 担当者準備
15	ロールシャッハ法⑬ まとめ	資料配布 担当者発表	資料学習 報告書作成
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 心理検査報告書の完成度（論理の一貫性、形式、エビデンスの有無）70% 授業参加態度（積極的発言、意欲、主体性）30%</p>			
<p>【教科書】 書名：改訂 新・心理診断法 著者名：片口安史 発行所：金子書房 価格：9500円(税別)</p>			
<p>【参考書】 書名：ロールシャッハ・テストの体験的基礎 著者名：E.G.シャハテル 発行所：みすず書房 価格：4500円(税別)</p>			
<p>【その他補足事項】 <u>教科書は教員の指示があるまで購入しないこと</u></p>			

授業科目名	臨床心理基礎実習		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 准教授 ふりがな きしよしのり わたなべあつこ 氏名：岸良範 , 渡部敦子	開講期	通年	
		授業回数	30回 (1回2コマ)	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	無	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	必修	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>前期は、臨床心理学的実践のための基礎的な技術を学びます。まず各症例に対する臨床心理士のかかわりがどのように進行していくのかをケーススタディを通して学び、インテーク、アセスメント、ケースの進行、終結のプロセスにおいてどのような面接技法が必要かを検討します。</p> <p>後期は、心理臨床相談センターにおいて、新規クライアントに対して教員が行う受理面接の陪席し、授業において問題の所在と見立て、今後の方針等について見解をまとめ、1事例ごとに全体で検討を行います。授業は15回中の2回は心理臨床相談センターにおける陪席に当てられます。</p> <p>前期は岸が、後期は渡部が担当します。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="checkbox"/>	A	知識
	<input type="checkbox"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
<input type="checkbox"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力	
<input type="checkbox"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
カウンセリングの対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点を持つ。		目標	B,J
問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力の基礎を持つ。		目標	B,I
臨床的支援の対象に関して見立て及び介入を行うための基礎を身につける		目標	J,L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	基礎実習の進め方についてのオリエンテーション	講義	指定された文献及び論文の検討
2	症例理解のためのオリエンテーション	講義	指定された文献及び論文の

			検討
3/4	症例理解のための実習（事例研究）Ⅰ 幼児期・児童期の事例の検討	ケースプレゼンテーション に対するディスカッション	指定された文 献及び論文の 検討
5/6	症例理解のための実習（事例研究）Ⅱ 思春期・青年期の事例の検討	ケースプレゼンテーション に対するディスカッション	指定された文 献及び論文の 検討
7/8	症例理解のための実習（事例研究）Ⅲ 成人期以降の事例の検討	ケースプレゼンテーション に対するディスカッション	指定された文 献及び論文の 検討
9/10	事例検討から見えてきた面接技法のポイントの確認①	小講義及びグループにお けるディスカッション	指定された文 献及び論文の 検討
11～ 15	面接技法の実習（ロールプレイ）	ロールプレイ及びその振 り返り	指定された文 献及び論文の 検討
16	後期オリエンテーション	オリエンテーション	臨床の対象に 関する理解 発表準備
17	子どもに関する臨床 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
18	発達障害に関する臨床 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
19	うつという問題 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
20	不安という問題 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
21	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
22	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
23	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
24	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
25	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
26	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
27	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備

28	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 授業の見直し
29	心理臨床相談センターにおいて、2回のインテイクに陪席する 授業の2回分はその陪席、観察、スーパーバイズに当てる		
30	同上		
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 前期／ケースの振り返りレポート 50% 積極的なディスカッション 50% 後期／2回のインテイク報告の発表に関して合計80%の評価をします。特に発表が、多角的、実証的、総合的であるかを重視します。発表に関する議論への参加を20%で評価します。特に積極性と、論理性に関して重視します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			
<p>【その他補足事項】 本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制（第1種）申請の手引に基づき、1週1回3時間（2コマ180分）の授業15回をもって1単位とする。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。</p>			

授業科目名	臨床心理基礎実習		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 准教授 ふりがな すぎやままさひこ さとうゆうき 氏名：杉山雅彦,佐藤佑貴	開講期	通年	
		授業回数	30回 (1回2コマ)	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		無
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	必修	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>前期は、臨床心理学的実践のための基礎的な技術を学びます。まず各症例に対する臨床心理士のかかわりがどのように進行していくのかをケーススタディを通して学び、インテーク、アセスメント、ケースの進行、終結のプロセスにおいてどのような面接技法が必要かを検討します。</p> <p>後期は、心理臨床相談センターにおいて、新規クライアントに対して教員が行う受理面接の陪席し、授業において問題の所在と見立て、今後の方針等について見解をまとめ、1事例ごとに全体で検討を行います。授業は15回中の2回は心理臨床相談センターにおける陪席に当てられます。</p> <p>前期は佐藤が、後期は杉山が担当します。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="checkbox"/>	A	知識
	<input type="checkbox"/>	B	技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C	論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D	文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G	協働能力
	<input type="checkbox"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
<input type="checkbox"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="checkbox"/>	K	課題対処力	
<input type="checkbox"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
カウンセリングの対象を多角的・実証的・総合的に理解する視点を持つ。		目標	B,J
問題の発見および解決の具体的方針を提案できる力の基礎を持つ。		目標	B,I
臨床的支援の対象に関して見立て及び介入を行うための基礎を身につける		目標	J,L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	基礎実習の進め方についてのオリエンテーション	講義	指定された文献及び論文の検討
2	症例理解のためのオリエンテーション	講義	指定された文献及び論文の

			検討
3/4	症例理解のための実習（事例研究）Ⅰ 幼児期・児童期の事例の検討	ケースプレゼンテーション に対するディスカッション	指定された文 献及び論文の 検討
5/6	症例理解のための実習（事例研究）Ⅱ 思春期・青年期の事例の検討	ケースプレゼンテーション に対するディスカッション	指定された文 献及び論文の 検討
7/8	症例理解のための実習（事例研究）Ⅲ 成人期以降の事例の検討	ケースプレゼンテーション に対するディスカッション	指定された文 献及び論文の 検討
9/10	事例検討から見えてきた面接技法のポイントの確認①	小講義及びグループにお けるディスカッション	指定された文 献及び論文の 検討
11～ 15	面接技法の実習（ロールプレイ）	ロールプレイ及びその振 り返り	指定された文 献及び論文の 検討
16	後期オリエンテーション	オリエンテーション	臨床の対象に 関する理解 発表準備
17	子どもに関する臨床 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
18	発達障害に関する臨床 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
19	うつという問題 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
20	不安という問題 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
21	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
22	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
23	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
24	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
25	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
26	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備
27	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 発表準備

28	インテイク報告 発表	発表と議論	議論の見直し 授業の見直し
29	心理臨床相談センターにおいて、2回のインテイクに陪席する 授業の2回分はその陪席、観察、スーパーバイズに当てる		
30	同上		
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 前期／ケースの振り返りレポート 50% 積極的なディスカッション 50% 後期／2回のインテイク報告の発表に関して合計80%の評価をします。特に発表が、多角的、実証的、総合的であるかを重視します。発表に関する議論への参加を20%で評価します。特に積極性と、論理性に関して重視します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			
<p>【その他補足事項】 本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制（第1種）申請の手引に基づき、1週1回3時間（2コマ180分）の授業15回をもって1単位とする。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。</p>			

授業科目名	臨床心理実習		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 ふりがな わたなべつとむ 氏名：渡邊 勉	開講期	通年	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		無
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>【授業の概要】</p> <p>本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「学外実習施設での実習」、「ケースカンファレンスへの参加」の3つの内容で構成される。このうち、「ケースカンファレンスへの参加」以外は授業時間外に行われる。なお本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制(第1種)申請の手引に基づき、1週1回3時間(2コマ180分)の授業15回をもって1単位とする。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなる。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
		B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
援助者としてクライアントに関わる態度や心構えを学ぶ。		目標	B
ケース記録をまとめる、ケースプレゼンテーションを行う、ケースカンファレンスに参加することを通して、心理臨床家として必要とされる実践的な技術を高める。		目標	B, I
学外実習施設において、他職種との連携について学ぶ		目標	B
		目標	
		目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成

3	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
4	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
5	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
6	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
7	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
8	外部実習計画発表 ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
9	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
10	外部実習発表会 ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
11	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
12	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
13	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
14	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
15	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) 実習の取り組み（実習回数、実習日誌の提出、参加態度など） 80%</p> <p>(2) ケースプレゼンテーション（レジユメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ） 20%</p>			
<p>【教科書】 使用しない。</p>			
<p>【参考書】 授業時、適宜紹介する。</p>			

【その他補足事項】

- ①本科目では 90 時間の実習を行う。内訳はケースカンファレンス等、時間割内に行うものが 60 時間、ケース担当実習および外部施設実習等時間割外に行うものが 30 時間となる。
- ②学内ケース担当実習では、心理療法（含む遊戯療法）は最低 3 ケースを担当する。
- ③外部実習施設での実習時期・日程等についての仔細は別途案内する。
その際、実習委託費として 1 日あたり 1000 円を実費徴収する。
- ④実習を行った際には実習報告書を提出すること。報告書の提出がない場合は実習としては認めない。

授業科目名	臨床心理実習		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：助教 ふりがな きむら やすひろ 氏名：木村 泰博		開講期	通年
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		無
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「学外実習施設での実習」、「ケースカンファレンスへの参加」の3つの内容で構成される。このうち、「ケースカンファレンスへの参加」以外は授業時間外に行われる。なお本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制(第1種)申請の手引に基づき、1週1回3時間(2コマ180分)の授業15回をもって1単位とする。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなる。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
援助者としてクライアントに関わる態度や心構えを学ぶ。			目標	B
ケース記録をまとめる、ケースプレゼンテーションを行う、ケースカンファレンスに参加することを通して、心理臨床家として必要とされる実践的な技術を高める。			目標	B, I
学外実習施設において、他職種との連携について学ぶ			目標	B
			目標	
			目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成

3	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
4	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
5	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
6	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
7	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
8	外部実習計画発表 ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
9	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
10	外部実習発表会 ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
11	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
12	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
13	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
14	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
15	ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) 実習の取り組み（実習回数、実習日誌の提出、参加態度など） 80%</p> <p>(2) ケースプレゼンテーション（レジユメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ） 20%</p>			
<p>【教科書】 使用しない。</p>			
<p>【参考書】 授業時、適宜紹介する。</p>			

【その他補足事項】

- ①本科目では 90 時間の実習を行う。内訳はケースカンファレンス等、時間割内に行うものが 60 時間、ケース担当実習および外部施設実習等時間割外に行うものが 30 時間となる。
- ②学内ケース担当実習では、心理療法（含む遊戯療法）は最低 3 ケースを担当する。
- ③外部実習施設での実習時期・日程等についての仔細は別途案内する。
その際、実習委託費として 1 日あたり 1000 円を実費徴収する。
- ④実習を行った際には実習報告書を提出すること。報告書の提出がない場合は実習としては認めない。

授業科目名	発達障害児援助実習		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼担教授 ふりがな <small>いたがきけんたろう</small> 氏名：板垣健太郎		開講期	通年
			授業回数	30回 (1回2コマ)
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		初回授業時に説明します。 ※事前の問い合わせ等は佐藤専攻主任まで。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】	
	<p>アスペルガー障害、高機能自閉症、ADHD（注意欠陥/多動性障害）等の発達障害を抱える子ども、発達が気になる子どもを対象として、心理臨床相談センターにおいて発達援助実習を行います。基本的に子ども一人ひとりに対する個別的な行動療法的アプローチを中心として、子どもたちの対人的交流や社会生活上の適応的行動を援助し、伸ばしていくことをねらいます。センター実習と全体での事例検討を綿密に繰り返し、履修者全員の事例検討力、臨床実践力を高めていくこともねらいます。</p>	A
B		技術・技能
○ C		論理的思考力
D		文章表現力
E		表情及び身体表現力
○ F		感性及び感動表現力
G		協働能力
H		まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
○ I		積極的発言力及びプレゼンテーション力
○ J		多様性への理解力、応用力
K		課題対処力
L		人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）	
発達障害とその発達援助について確かな視座をもち、対象者支援に臨むことができる。	目標	C
事例個々について適切な見立てと援助を行う臨床実践力を身につける。	目標	C,I,J
援助者として対象者に関わる態度や心構え、さらには援助し関わることの面白さと難しさを学ぶ。	目標	F,J
	目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	事前学習① (発達障害児への発達援助理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成

3	事前学習② (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
4	事前学習③ (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
5	事前学習④ (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
6	心理臨床相談センター実習① (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
7	事例検討①	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
8	事例検討②	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
9	心理臨床相談センター実習② (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
10	事例検討③	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
11	事例検討④	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
12	心理臨床相談センター実習③ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
13	事例検討⑤	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
14	事例検討⑥	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
15	心理臨床相談センター実習④ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
16	事例検討⑦	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
17	事例検討⑧	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
18	心理臨床相談センター実習⑤ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
19	事例検討⑨	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成

20	事例検討⑩	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
21	心理臨床相談センター実習⑥ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
22	事例検討⑪	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
23	事例検討⑫	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
24	心理臨床相談センター実習⑦ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
25	事例検討⑬	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
26	事例検討⑭	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
27	心理臨床相談センター実習⑧ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
28	事例検討⑮	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
29	事例検討⑯	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
30	まとめー実習総括、個々の振り返り	全体議論	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>授業参加態度（意欲・主体性）50%</p> <p>センター実習での取り組み（適切な見立てに基づく効果的な援助ができているかどうか）50%</p>			
<p>【教科書】使用しません。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>※1 本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制（第1種）申請の手引に基づき、1週1回3時間（2コマ180分）の授業15回をもって1単位とします。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。</p> <p>※2 本科目は担当教員が履修者を等分に2グループ（板垣教授担当グループ、佐藤准教授担当グループ）に分けます。ただし、事例理解の多面性と豊かな実践力を高めるため、授業は同じ教室にて行い、複数名の視点から指導をします。</p> <p>※3 臨床実践力を高めるためには、実習による学びが非常に有効です。上記に定める実習時間は単位認定にかかる最低時間数ですので、積極的に実習に取り組んでいただくことを望みます。また、心理的支援の進行の都合によっても、上記に定める実習時間以上に実習を担当していただくことがあります。</p>			

授業科目名	発達障害児援助実習		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな さとうゆうき 氏名：佐藤佑貴		開講期	通年
			授業回数	30回 (1回2コマ)
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 アスペルガー障害、高機能自閉症、ADHD（注意欠陥/多動性障害）等の発達障害を抱える子ども、発達が気になる子どもを対象として、心理臨床相談センターにおいて発達援助実習を行います。基本的に子ども一人ひとりに対する個別的な行動療法的アプローチを中心として、子どもたちの対人的交流や社会生活上の適応的行動を援助し、伸ばしていくことをねらいます。センター実習と全体での事例検討を綿密に繰り返し、履修者全員の事例検討力、臨床実践力を高めていくこともねらいます。	【授業の概要との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）	
発達障害とその発達援助について確かな視座をもち、対象者支援に臨むことができる。			目標	C
事例個々について適切な見立てと援助を行う臨床実践力を身につける。			目標	C,I,J
援助者として対象者に関わる態度や心構え、さらには援助し関わることの面白さと難しさを学ぶ。			目標	F,J
			目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション		
2	事前学習① (発達障害児への発達援助理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成

3	事前学習② (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
4	事前学習③ (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
5	事前学習④ (発達障害児への発達援理解、対象児のアセスメントと援助方針立案)	事例に関するプレゼンテーションおよびディスカッション	発表資料の作成
6	心理臨床相談センター実習① (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
7	事例検討①	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
8	事例検討②	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
9	心理臨床相談センター実習② (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
10	事例検討③	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
11	事例検討④	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
12	心理臨床相談センター実習③ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
13	事例検討⑤	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
14	事例検討⑥	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
15	心理臨床相談センター実習④ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
16	事例検討⑦	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
17	事例検討⑧	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成
18	心理臨床相談センター実習⑤ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
19	事例検討⑨	事例担当者による発表と全体議論	発表資料の作成

20	事例検討⑩	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
21	心理臨床相談センター実習⑥ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
22	事例検討⑪	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
23	事例検討⑫	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
24	心理臨床相談センター実習⑦ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
25	事例検討⑬	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
26	事例検討⑭	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
27	心理臨床相談センター実習⑧ (発達援助実習、セッション記録作成、次回セッション原案作成)		実習報告書の作成、提出
28	事例検討⑮	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
29	事例検討⑯	事例担当者による発表 と全体議論	発表資料の作成
30	まとめー実習総括、個々の振り返り	全体議論	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>授業参加態度（意欲・主体性）50%</p> <p>センター実習での取り組み（適切な見立てに基づく効果的な援助ができているかどうか）50%</p>			
<p>【教科書】使用しません。</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>※1 本科目は、(財)日本臨床心理士資格認定協会、大学院指定制（第1種）申請の手引に基づき、1週1回3時間（2コマ180分）の授業15回をもって1単位とします。つまり、上記授業内容における回数は、1回2コマとなります。</p> <p>※2 本科目は担当教員が履修者を等分に2グループ（板垣教授担当グループ、佐藤准教授担当グループ）に分けます。ただし、事例理解の多面性と豊かな実践力を高めるため、授業は同じ教室にて行い、複数名の視点から指導をします。</p> <p>※3 臨床実践力を高めるためには、実習による学びが非常に有効です。上記に定める実習時間は単位認定にかかる最低時間数ですので、積極的に実習に取り組んでいただくことを望みます。また、心理的支援の進行の都合によっても、上記に定める実習時間以上に実習を担当していただくことがあります。</p>			

授業科目名	心理実践実習 B		授業形態・単位数	実習・5 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 教授 助教 ふりがな すぎやままさひこ いたがきけんたろう きむらやすひろ 氏名：杉山雅彦,板垣健太郎,木村泰博	開講期	通年	
		授業回数	30 回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	無	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>【授業の概要】</p> <p>本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「学外実習施設での実習」、「カンファレンス」の3つの内容で構成される。このうち、「カンファレンス（学外・学内両実習）」以外は授業時間外に行われる。</p> <p>学内実習は通年で陪席実習を中心に行う。学外実習は、医療・福祉・司法各領域の専門機関における見学実習（前期）と同機関におけるケース担当実習（後期）に分かれる。また、各機関の実習後に担当業務やケースについてのカンファレンスを実施する。</p>	【授業の概要との対応項目】	
	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技術・技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章表現力
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/> G	協働能力
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/> K	課題対処力
	<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）	
検査法・面接法等によりケースのアセスメントができる。	目標	B, J
ケースについての支援計画が策定できる。	目標	B, I
学外実習施設において、他職種および地域との連携について学ぶ。	目標	A, B
公認心理師としての職業倫理および法的義務について説明できる。	目標	A
	目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
2	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
3	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成

		ン	
4	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
5	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
6	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
7	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
8	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
9	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
10	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
11	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
12	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
13	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
14	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
15	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
16	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
17	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
18	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
19	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成

20	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
21	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
22	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
23	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
24	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
25	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
26	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
27	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
28	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
29	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
30	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) 実習の取り組み（実習回数、実習日誌の提出、参加態度など） 80%</p> <p>(2) ケースプレゼンテーション（レジュメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ） 20%</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>①本科目では 225 時間の実習を行う。内訳はケースカンファレンス等、時間割内に行うものが 60 時間、陪席実習および見学実習等時間割外に行うものが 165 時間となる。</p> <p>②また、学内実習は陪席実習とケースカンファレンスを中心に行う。学外実習は、施設見学実習およびケース担当実習を行う。実習時期・日程等についての仔細は別途案内する。</p> <p>③実習を行った際には実習報告書を提出すること。報告書の提出がない場合は実習としては認めない。</p> <p>④外部実習では、実習委託費として 1 日あたり 1000 円を実費徴収する。</p>			

授業科目名	心理実践実習 B		授業形態・単位数	実習・5 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 教授 准教授 ふりがな きしよしのり わたなべあつこ さとうゆうき 氏名：岸良範, 渡部敦子, 佐藤佑貴		開講期	通年
			授業回数	30 回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		無
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>【授業の概要】</p> <p>本科目は、「学内附属施設心理臨床相談センターでの実習」、「学外実習施設での実習」、「カンファレンス」の3つの内容で構成される。このうち、「カンファレンス（学外・学内両実習）」以外は授業時間外に行われる。学内実習は通年で陪席実習を中心に行う。学外実習は、医療・福祉・司法各領域の専門機関における見学実習（前期）と同機関におけるケース担当実習（後期）に分かれる。また、各機関の実習後に担当業務やケースについてのカンファレンスを実施する。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/> A	知識	
	<input type="radio"/> B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力	
	<input type="radio"/> D	文章表現力	
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/> G	協働能力	
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/> K	課題対処力		
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）	
検査法・面接法等によりケースのアセスメントができる。		目標	B, J
ケースについての支援計画が策定できる。		目標	B, I
学外実習施設において、他職種および地域との連携について学ぶ。		目標	A, B
公認心理師としての職業倫理および法的義務について説明できる。		目標	A
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
2	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
3	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成

4	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
5	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
6	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
7	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
8	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
9	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
10	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
11	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
12	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
13	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
14	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
15	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
16	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
17	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
18	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
19	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
20	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成

21	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
22	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
23	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
24	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
25	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
26	陪席実習	教員担当のケースへの陪席と事前事後のディスカッション	実習報告書の作成, 提出
27	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
28	学内ケースカンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
29	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
30	外部実習事後カンファレンス	ケースプレゼンテーションとディスカッション	発表資料の作成
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>(1) 実習の取り組み（実習回数、実習日誌の提出、参加態度など） 80%</p> <p>(2) ケースプレゼンテーション（レジュメの形式及びケースの見立て・方針の明瞭さ） 20%</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>①本科目では 225 時間の実習を行う。内訳はケースカンファレンス等、時間割内に行うものが 60 時間、陪席実習および見学実習等時間割外に行うものが 165 時間となる。</p> <p>②また、学内実習は陪席実習とケースカンファレンスを中心に行う。学外実習は、施設見学実習およびケース担当実習を行う。実習時期・日程等についての仔細は別途案内する。</p> <p>③実習を行った際には実習報告書を提出すること。報告書の提出がない場合は実習としては認めない。</p> <p>④外部実習では、実習委託費として 1 日あたり 1000 円を実費徴収する。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究 I		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな ほしのよしひこ 氏名：星野仁彦	開講期	前期	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します ※事前の問い合わせ等は研究室（福島駅前キャンパス E301）にお越しください。		

<p>【授業の概要】</p> <p>自らの関心を深め、研究テーマを設定します。テーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する概念や先行研究の内容、研究法について学修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。</p> <p>※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）	
① 自らの関心を絞り込む。		目標	A、C、J
② 心理学・精神医学の論文の読み方、まとめ方を学ぶ。		目標	A、C
③ 研究計画をたてる。		目標	A、C、D、J
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～2	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自身の興味・関心に関連する情報を収集する。
3～10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジюмеを作成する。
11～15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- ・先行研究を精読しまとめることができているか（60%）
- ・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる研究計画が作成できているか（40%）、という観点から評価します。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究 I		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 <small>ふりがな</small> 氏名：杉山雅彦		開講期	前期
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60 時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>【授業の概要】</p> <p>学生それぞれの関心に沿っての研究課題あるいは論文に関して基礎的な知識及び研究の現状に関して検討していきます。関心領域に関する学会誌等の学術論文を精読していく過程で研究法に関して明確にし、研究のプロセスに関する理解を深めていきます。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
① 目的を明確にし、研究テーマを決定する		目標	A、C、
② 研究倫理について理解する。		目標	A、
③ 研究計画の作成		目標	A、C、J
④ 先行研究のレポート		目標	A、C、J
		目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1~3	関心のブラッシュアップ	ディスカッション	【予習】自他の心理や社会からの情報をキャッチし言葉にする。 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。

4～9	先行研究の探索とレポート	先行研究に関するプレゼンテーションとディスカッション	<p>【予習】先行研究を収集し、レジюмеを作成する。</p> <p>【復習】授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。</p>
10～15	研究計画書の作成および、先行研究のディスカッション	ディスカッション	<p>【予習】研究の方法論について調べてくる。</p> <p>【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。</p>
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>関心領域に関連する基礎知識の学習程度（30%）</p> <p>先行研究の収集及びレビューのレベル（50%）</p> <p>テーマ、研究計画の立案（20%）</p> <p>について評価します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			
<p>【参考書】 授業内で適宜紹介します。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究 I		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな わたなべつとむ 氏名：渡邊 勉	開講期	前期	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します		

<p>【授業の概要】</p> <p>自らの関心を深め、研究テーマを設定します。テーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する概念や先行研究の内容、研究法について学修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。</p> <p>※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/> A	知識	
	<input type="radio"/> B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力	
	<input type="radio"/> D	文章表現力	
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/> G	協働能力	
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/> K	課題対処力	
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)		
関心を絞り込む。	目標	A、C、J	
論文の読み方、まとめ方を学ぶ。	目標	A、C	
研究計画を立てる	目標	A、C、D、J	
	目標		

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1~2	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自身の興味・関心に関連する情報を収集する。
3~10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジュメを作成する。
11~15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- ・先行研究を精読しまとめることができているか（60%）
- ・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる研究計画が作成できているか（40%）、という観点から評価します。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究 I		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな きしよしのり 氏名：岸良範	開講期	前期	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します		

<p>【授業の概要】</p> <p>自らの関心を深め、研究テーマを設定します。テーマにまつわる書籍、論文等を読み込み、関連する概念や先行研究の内容、研究法について学修します。それらを踏まえて、研究計画を作成していきます。</p> <p>※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/> A	知識	
	<input type="radio"/> B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力	
	<input type="radio"/> D	文章表現力	
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/> G	協働能力	
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/> K	課題対処力	
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)		
関心を絞り込む。	目標	A、C、J	
論文の読み方、まとめ方を学ぶ。	目標	A、C	
研究計画を立てる	目標	A、C、D、J	
	目標		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1~2	自らの関心を言語化し、絞り込む	ディスカッション	自身の興味・関心に関連する情報を収集する。
3~10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジュメを作成する。
11~15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- ・先行研究を精読しまとめることができているか（60%）
- ・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる研究計画が作成できているか（40%）、という観点から評価します。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究 I		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな わたなべあつこ 氏名：渡部敦子	開講期	前期	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>【授業の概要】</p> <p>自らの関心を深めていき、それを心理学的研究のテーマとして設定する。テーマにまつわる書籍、論文等を読み込むなかで、関連する概念や先行研究の内容、研究法を身につけていく。それらを踏まえて、研究計画を作成する。 ※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/> A	知識	
	<input type="radio"/> B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力	
	<input type="radio"/> D	文章表現力	
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/> G	協働能力	
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/> K	課題対処力	
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)		
①自らの関心を絞り込む。	目標	A、C、J	
②心理学の論文の読み方、まとめ方を学ぶ。	目標	A、C	
③研究計画をたてる。	目標	A、C、D、J	
	目標		

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1~3	自らの関心の絞り込み	ディスカッション	世の中の様々な事象や文献など自身の興味・関心に関連するものをピックアップする。
4~10	先行研究論文の読み込みと発表	プレゼンテーション ディスカッション	関連論文を読み、レジュメを作成する
11~15	研究計画作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とそのブラッシュアップ

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- ・先行研究を精読しまとめることができているか（60%）
- ・それらを踏まえた研究テーマを設定することができたか、そのテーマを検討することができる研究計画が作成できているか（40%）、という観点から評価します。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究 I		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	1 年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな さとうゆうき 氏名：佐藤佑貴		開講期	前期
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>【授業の概要】</p> <p>各自の関心から、研究テーマおよびリサーチクエスチョン (RQ) を決定するプロセスを経て研究計画を作成する。新たな意義ある RQ を創出するために、先行研究のクリティーク (批判的検討) を行い、RQ の解明のために適切な手段を選択できるよう、研究の方法論についても学びを深めます。</p> <p>※研究倫理に関する説明が授業の初期に含まれています。</p>	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
① 関心を言葉および文章で表現することで、より明確にできる。		目標	A、C、J
② 先行研究を批判的に読むことができる。		目標	A、C
③ RQ の解明のために必要な方法を選択することができる。		目標	A、C、D、J
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1~3	関心のブラッシュアップ	ディスカッション	【予習】 自他の心理や社会からの情報をキャッチし言葉にする。 【復習】 授業でのディスカッションの論点をまとめる。

4～9	先行研究のクリティーク	先行研究に関するプレゼンテーションとディスカッション	<p>【予習】先行研究を収集し、レジюмеを作成する。</p> <p>【復習】授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。</p>
10～15	研究計画書の作成	ディスカッション 各回レポート作成	<p>【予習】研究の方法論について調べてくる。</p> <p>【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。</p>
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行研究の要点および課題等をまとめることができているか、レジюмеとプレゼンテーションにおいて評価します（40%）。 研究計画書の形式に則り、かつ論理的に記述ができているか、各回のレポートにより評価します（60%）。 			
<p>【教科書】使用しません。</p>			
<p>【参考書】授業内で適宜紹介します。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな ほしのよしひこ 氏名：星野仁彦	開講期	後期	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します ※事前の問い合わせ等は研究室（福島駅前キャンパス E301）にお越しください。		

【授業の概要】 研究計画をブラッシュアップし、予備研究を始めます。また、予備研究を学会等にて発表できるよう準備を進めます。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
○	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）	
① 調査用紙の作成または臨床実践の開始			目標	C,J,K
② 調査の実施または実践報告のレポートの作成			目標	C,J,K
③ 先行研究のレビュー作成			目標	A,C,K
			目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～3	研究計画と先行研究の関連のディスカッション	ディスカッション	【予習】先行研究の吟味 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめ研究計画をブラッシュアップする。

4～ 8	予備研究関連データのディスカッション	ディスカッション	<p>【予習】 研究に関連する方法手続きの吟味</p> <p>【復習】 授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。</p>
9～ 15	予備研究の施行とデータに関するディスカッション	ディスカッション	<p>【予習】 データの記述と分析</p> <p>【復習】 授業でのディスカッションの論点をまとめる。</p>
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究のレビューの充実（30%） ・ 研究計画の進捗状況のレポートの提出（40%） ・ 積極的な意見の提示（30%） 			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			
<p>【参考書】 授業内で適宜紹介します。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな <small>すぎやままきひこ</small> 氏名：杉山雅彦		開講期	後期
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 臨床心理課題研究Ⅰで作成された研究計画を検討修正しながら、予備研究に着手していきます。同時に先行研究のレビューを進め、計画された研究に関して理解を深めていく。予備的な研究に関しては発表する形がとれるよう準備を進めます。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/> A	知識	
	<input type="radio"/> B	技術・技能	
	<input type="radio"/> C	論理的思考力	
	<input type="radio"/> D	文章表現力	
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/> G	協働能力	
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/> K	課題対処力		
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）		
④ 調査用紙の作成または臨床実践の開始	目標	C,J,K	
⑤ 調査の実施または実践報告のレポートの作成	目標	C,J,K	
⑥ 先行研究のレビュー作成	目標		
	目標		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～3	研究計画と先行研究の関連のディスカッション	ディスカッション	【予習】先行研究の吟味 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめ研究計画をブラッシュアップする。

4～ 8	予備研究関連データのディスカッション	ディスカッション	<p>【予習】 研究に関連する方法手続きの吟味</p> <p>【復習】 授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。</p>
9～ 15	予備研究の施行とデータに関するディスカッション	ディスカッション	<p>【予習】 データの記述と分析</p> <p>【復習】 授業でのディスカッションの論点をまとめる。</p>
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究のレビューが進んでいくかどうか（30%） ・ 計画の進捗状況が明確になるレポートが提出されるかどうか（40%） ・ テーマに関するデータの分析（30%） 			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			
<p>【参考書】 授業内で適宜紹介します。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな わたなべつとむ 氏名：渡邊 勉	開講期	後期	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 臨床心理課題研究Ⅰに引き続き、先行研究を精読しながら、並行して研究計画をより精緻なものに仕上げていく。必要であれば、予備調査等を行います。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
①研究計画の仕上げ		目標	A、C、D、J
②予備調査の実施		目標	A、C
③データ分析の実施		目標	A、C
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～9	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とブラッシュアップ
10～12	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
13～15	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析

【到達度の評価（評価方法・基準）】

先行研究を精読しまとめることができているか（20%）、それらを踏まえた研究計画が実行できているか（80%）という観点から評価します。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：教授 ふりがな きしよしのり 氏名：岸良範	開講期	後期	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 臨床心理課題研究Ⅰに引き続き、先行研究を精読しながら、並行して研究計画をより精緻なものに仕上げていく。必要であれば、予備調査等を行います。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
①研究計画の仕上げ		目標	A、C、D、J
②予備調査の実施		目標	A、C
③データ分析の実施		目標	A、C
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～9	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とブラッシュアップ
10～12	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
13～15	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析

【到達度の評価（評価方法・基準）】

先行研究を精読しまとめることができているか（20%）、それらを踏まえた研究計画が実行できているか（80%）という観点から評価します。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな わたなべあつこ 氏名：渡部敦子		開講期	後期
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
			開講キャンパス	福島駅前キャンパス
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 臨床心理課題研究Ⅰに引き続き、先行研究を精読しながら、並行して研究計画をより精緻なものに仕上げていく。必要であれば、予備調査等を行います。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
①研究計画の仕上げ		目標	A、C、D、J
②予備調査の実施		目標	A、C
③データ分析の実施		目標	A、C
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～9	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とブラッシュアップ
10～12	予備研究の実施	ディスカッション	予備研究資料準備 統計的分析方法の復習
13～15	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備研究のデータ分析

【到達度の評価（評価方法・基準）】

先行研究を精読しまとめることができているか（20%）、それらを踏まえた研究計画が実行できているか（80%）という観点から評価します。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな さとうゆうき 氏名：佐藤佑貴	開講期	後期	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
公認心理師		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 臨床心理課題研究Ⅰにて作成した先行研究をブラッシュアップさせます。また、必要に応じて予備的研究を実施します。	【授業の概要との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
① 文献の読み込みによって研究計画がブラッシュアップされる		目標	C、D、J
② 予備的研究の形式を整え、実施することができる		目標	C、K
③ 予備的研究のデータ分析ができる		目標	C
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～9	研究計画の作成	プレゼンテーション ディスカッション	研究計画作成とブラッシュアップ
10～12	予備研究の実施	ディスカッション	予備的研究資料作成および整理
13～15	予備研究のデータ分析	ディスカッション	予備的研究のデータ分析

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- ・先行研究を精読しまとめることができているか（20%）
- ・それらを踏まえた研究計画を実行しているか（80%）という観点から評価します。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅲ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：教授 ふりがな すぎやま まさひこ 氏名：杉山雅彦		開講期	前期
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

臨床心理課題研究Ⅱで進められた予備的研究を継続し先行研究の検討、及び資料収集を行います。その上で、作成された研究計画を検討修正しながら、論文の作成、執筆に入っていきます。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
① 研究も方法に習熟する		目標	A,C,J,K
②論文に関する問題と目的を明確にする		目標	C,J,K
③論文の構成を明確にする		目標	C,J,K
		目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～3	予備研究のまとめとディスカッション	ディスカッション	【予習】予備研究の吟味 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめ研究計画をブラッシュアップする。

4～ 8	本研究に関するディスカッションと構成の検討	ディスカッション	<p>【予習】研究に のプロセスに 関する検討と 得られた結果 に関する先行 研究との比較</p> <p>【復習】授業で 挙げた課題 について調査 し、見通しを持 つ。</p>
9～ 15	本研究の施行とデータに関するディスカッション	ディスカッション	<p>【予習】本研究 のデータの記 述と分析</p> <p>【復習】授業で のディスカッ ションの論点 をまとめる。</p>
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>論文の構成がどの程度に達しているのか、作業としてどのように進み、理解が進んでいるかを基準に評価します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			
<p>【参考書】 授業内で適宜紹介します。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅲ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな わたなべあつこ 氏名：渡部敦子		開講期	前期
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

<p>【授業の概要】</p> <p>臨床心理課題研究Ⅰ・Ⅱにて行ってきた先行研究の精読および予備研究の再検討を行い、それを踏まえた本調査を実施します。データ分析を行い、論文の執筆を始めます。</p>	【授業の概要との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
①研究計画の整理をする。		目標	C、D、K
②本調査を実施する。		目標	C、D、K
③データ分析を行う。		目標	A、C
		目標	
		目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1~4	研究計画の仕上げ	プレゼンテーション ディスカッション	予備研究の結果を踏まえた本調査計画の仕上げ
5~7	本調査の実施	ディスカッション	本調査の資料準備 分析方法の復習

8～ 15	本調査のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の 実施と発表準備
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>本調査の実施状況（65%）、それに対する理解と考察、論文の進行度合い（35%）を基準に評価します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅲ		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな 氏名：佐藤佑貴 さとうゆうき		開講期	前期
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60 時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 これまでに設定した研究の問題と目的、方法に基づき、本研究を実施します。また、本研究のデータ分析を行い、論文の執筆を始めます。	【授業の概要との対応項目】		
		A	知識
		B	技術・技能
	○	C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
① 予備的研究の結果を整理する。		目標	C、D、K
② 本研究を実施する。		目標	C、D、K
③ 本研究データ分析を行う。		目標	C
		目標	
		目標	

【授業計画】			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1~4	予備的研究結果の整理	プレゼンテーション ディスカッション	予備的研究の結果を踏まえた本研究計画の仕上げ
5~7	本研究の実施	ディスカッション	本研究実施のための資料準備 分析方法の復習

8～ 15	本研究のデータ分析と考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析の 実施と発表準備
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>本研究の実施状況（65%）、それに対する理解と考察、論文の進行度合い（35%）を基準に評価します。</p>			
<p>【教科書】 使用しません。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅳ		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：教授 ふりがな <small>すぎやま まさひこ</small> 氏名：杉山雅彦		開講期	後期
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

【授業の概要】 臨床心理課題研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを受けて、討論、スーパービジョンを交えながら修士論文の執筆を進めます。	【授業の概要との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】（受講して得られる力）			
修士論文を提出し、口頭試問に関する準備対応が出来る。	目標	C,D,J,K		
	目標			

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～3	論文の進行とディスカッション	ディスカッション	【予習】研究(論文)の吟味 【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめ研究計画をブラッシュアップする。

4～ 8	論文の進行と結果に関するディスカッション	ディスカッション	<p>【予習】研究（論文）の結果に関する先行研究との比較</p> <p>【復習】授業で挙げた課題について調査し、見通しを持つ。</p>
9～ 15	論文の執筆進行と考察	ディスカッション	<p>【予習】研究（論文）の分析と考察</p> <p>【復習】授業でのディスカッションの論点をまとめる。</p>
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>論文が提出されたかどうかを主たる観点とし、その論文が最終的にどのような内容を含んでいるかに関して評価します。</p> <p>※最終的な評価は修士論文の評価と連動しています。</p>			
<p>【教科書】使用しません。</p>			

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅳ		授業形態・単位数	演習・2 単位
			開講年次	2 年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな わたなべあつこ 氏名：渡部敦子	開講期	後期	
		授業回数	時間割外	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60 時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 臨床心理課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに続き、修士論文の完成を目指します。論文の執筆と必要に応じてデータの再分析等を行います。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
①データ分析の結果を考察できる。		目標	A、C、D
②修士論文を完成させる。		目標	A、C、D
		目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1～3	データ分析の仕上げと考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析 結果の解釈と 考察
4～ 14	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ 論文を執筆する
15	口頭での研究発表	プレゼンテーション ディスカッション	発表練習と資料作成

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- ・論文の構成（5%）
- ・データの解釈とそれに対する考察（80%）
- ・文章表現力（5%）
- ・口頭での説明力（10%）

これらについて評価します。

※最終的な評価は修士論文の評価と連動しています。

【教科書】 使用しません。

授業科目名	臨床心理課題研究Ⅳ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：准教授 ふりがな さとうゆうき 氏名：佐藤佑貴		開講期	後期
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
修了		専門科目	必修	
臨床心理士		専門科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。		

【授業の概要】 本科目では、臨床心理課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに続き、修士論文の完成を目指します。研究結果に基づき、論文の執筆と必要に応じてデータの再分析等を行います。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】(受講して得られる力)	
①データ分析の結果を考察できる。		目標	A、C、D
②修士論文を完成させる。		目標	A、C、D
		目標	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブ・ラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1～3	本研究のデータ分析のまとめと考察	プレゼンテーション ディスカッション	データ分析 結果の解釈と 考察
4～ 14	修士論文の執筆	プレゼンテーション ディスカッション	考察をまとめ 論文を執筆する
15	口頭での研究発表	プレゼンテーション ディスカッション	発表練習と資料作成

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- ・論文における論理の明確さ（5%）
- ・データとそれに対する考察の明証性（80%）
- ・プレゼンテーションにおける説明力（10%）

これらについて評価します。

※最終的な評価は修士論文の評価と連動しています。

【教科書】 使用しません。